

北海道留萌管内地域公共交通計画 (各種調査結果)





目次

1 地域の移動特性・ニーズ.....	5
1-1 住民アンケート調査.....	6
(1) 目的.....	6
(2) 実施概要.....	6
(3) 調査結果.....	6
1-2 バス乗降調査.....	64
(1) 調査の目的.....	64
(2) 調査の概要.....	64
(3) カウント調査結果.....	65
(4) ヒアリング調査.....	97
1-3 来訪者 Web アンケート調査.....	106
(1) アンケートの概要.....	106
(2) アンケートの結果.....	106





1 地域の移動特性・ニーズ



1-1 住民アンケート調査

(1) 目的

住民の日頃の交通行動や公共交通に対する要望・課題を把握するため、地域内に居住する2,300世帯を対象として、郵送によるアンケート調査を実施しました。

(2) 実施概要

実施の概要は下表のとおりです。

表 1-1 住民アンケート調査の実施概要

調査対象	留萌管内に居住する世帯
調査期間	2022(令和4)年9月1日(木)~9月18日(日)
配布数	2,300票(内、宛先不明による返送13票)
回収数(回収率)	980票(回収率42.9%)
配布・回収方法	郵送配布・郵送もしくはWeb回答による回収

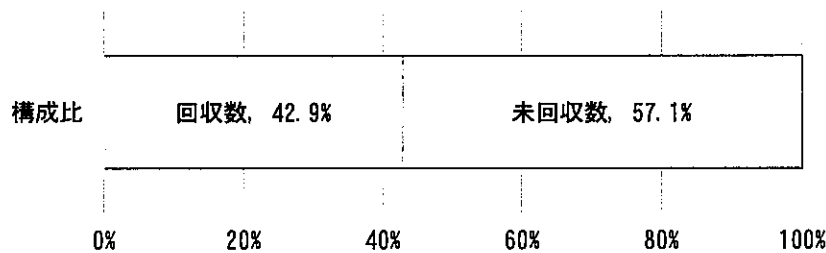


図 1-1 回収の状況

(3) 調査結果

① 結果の概要

質問	結果概要
基本属性	
Q1.居住地域	・留萌市が4割
Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う場所にあるか	・あるが8割強
Q3-1.世帯人数	・2人が4割強、1人が2割
Q3-2.世帯の年齢構成	・40歳以上が7割
Q3-3.運転が困難な方の有無	・いるが3割
Q4.回答者の年齢	・50歳以上が7割
Q5.回答者の性別	・ほぼ半分ずつ
Q6.回答者の運転免許の所持状況	・持っているが7割強
移動の状況	
Q7.普段運転できる車を持っているか	・持っているが9割
Q8-1.自家用車を利用する一番の理由	・いつでも利用できるからが8割強
Q8-2-1.何歳まで運転したいか	・75~84歳が6割弱
Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段	・バス等の利用が5割
Q8-3.運転に不安を持つときがあるか	・冬や長距離運転に不安があるが5割
Q8-4.運転について、不安な内容	・冬の運転が不安が5割弱
Q8-5.事故を回避できる自信があるか	・自信があるが4割

質問	結果概要
Q8-6.免許返納の特典等があれば返納しやすくなるか	・返納しやすくなる、少し返納しやすくなるがそれぞれ3割弱
Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況	・車を使用できないが1割強
Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況	・スマートフォンを保有が割弱
日常的な外出について	
Q11.公共交通の利用	・特急はぼろ号、高速るもい号が年に数回の利用がある
Q12-1-1.主な外出の目的	・通勤が約5割
Q12-1-2.曜日別の主な外出の目的	・曜日に関わらず多様な目的がみられる
Q12-1-3.平日、休日別の主な外出の目的	・平日は通勤・通学、休日は観光、レジャー
Q12-1-4.主な目的別の外出日数	・買い物、通院は週に1.4回程度
Q12-2-1.家を出た時間、帰宅した時間	・出発は8時が多く、帰宅は18時が多い
Q12-2-2.平日、休日別家を出た時間、帰宅した時間	・出発時刻は8時、帰宅は18時が多いが、平日の方が家を出ている人数が多い
Q12-3.平日、休日別の外出時の行先	・留萌市が多い
Q12-4-1.行きに利用した交通手段	・自家用車が非常に多くを占めている
Q12-5-1.帰りに利用した交通手段	
Q12-4-2.乗車した停留所、降車した停留所	
Q12-5-2.乗車した停留所、降車した停留所	
Q12-6.バスより少し高い運賃で、自宅と目的地を直接結ぶ公共交通が運行する場合、変えても良い曜日はあるか	・どの曜日でもバランスよく回答があった
Q12-7.公共・公益施設の行先	・留萌市立病院、留萌高等学校、マックスバリュ留萌店が多くみられた。
Q12-8.大きな施設に行く場合の行先	・留萌市立病院、マックスバリュ留萌店が多くみられた
今後の公共交通への要望等	
Q13.自家用車に頼らないとき、公共交通はどうあってほしいか	・バスとタクシーの中間が3割強
Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度	・変わらないが4割、減ったが2割強
Q14-2.外出そのものが減ったか、公共交通以外の移動手段に変わったか	・外出自体が減ったが8割
Q14-3.感染症流行が終息した後、公共交通利用促進のための有効な方策	・対策なし、格安での利用、少人数による輸送が比較的多い
Q15-1.路線バスの利用状況について	・現在利用していないが今後は利用する、今後も利用しないがそれぞれ3割
Q15-2.路線バスの満足度について	・始発時刻、運賃、乗り降りのしやすさは満足が多く、便数、待合環境は不満
Q15-3.電話予約型公共交通は利用するか	・利用すると思うが3割強
Q15-4.既に利用している場合、どの程度利用しているか	・週に1,2回、月に数回程度がそれぞれ3割

質問	結果概要
Q15-5.予約型公共交通が近隣市町村まで運行した場合、運賃が〇円高くなっても利用するか	・200円高くなっても利用するが8割、400円高くなっても利用するが4割
Q15-6.公共交通を維持するための方針について	・運行に係る経費を税金等から補填し、現在のサービスを維持する、長大路線を分割して、ニーズに合った時刻に見直すのが比較的多い
Q16-1.月3,000円、月6,000円の公共交通があった場合、利用するか	・月3,000円であれば利用するが3割
Q16-2.沿岸バスを利用する際の支払い方法	・現金が3割
Q16-3.10日程度の往復運賃で1か月を通して利用できるバスがあった場合、利用するか	・利用するが2割強
Q16-4.パークアンドバスライドで温泉や食事の割引も受けられる場合、利用するか	・利用するが3割
Q16-5.バス運転手として就業を考える場合、バス会社が行うべき支援策	・大型二種免許の取得補助、短時間勤務など勤務体験の運用が比較的多い
Q16-6.公共交通にあると便利なサービス	・割引サービス、乗り継ぎしやすさ、休憩待合室が比較的多い
自由記述	

② 基本属性

留萌市に居住していると答えた割合が最も多く、42.8%となっています。

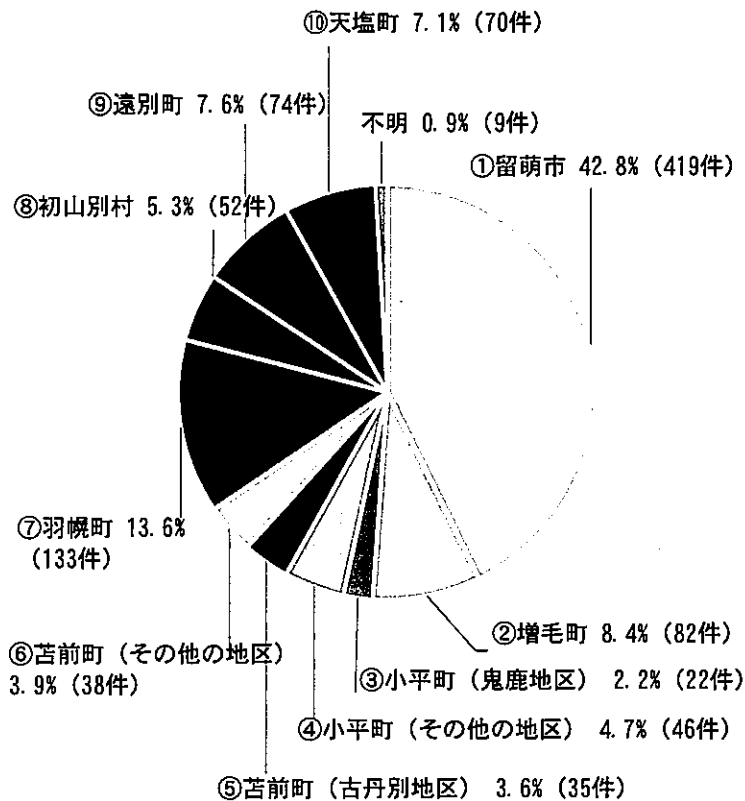


図 1-2 Q1.居住地区

最寄りのバス停は歩いて行こうと思う所があると答えた割合が多く、84.9%となっています。また、地域別にみると小平町の鬼鹿地区以外の地区、苫前町の古丹別地区、羽幌町ではバス停はないがデマンドバスが家の前に来ると答えた割合が比較的高くなっています。

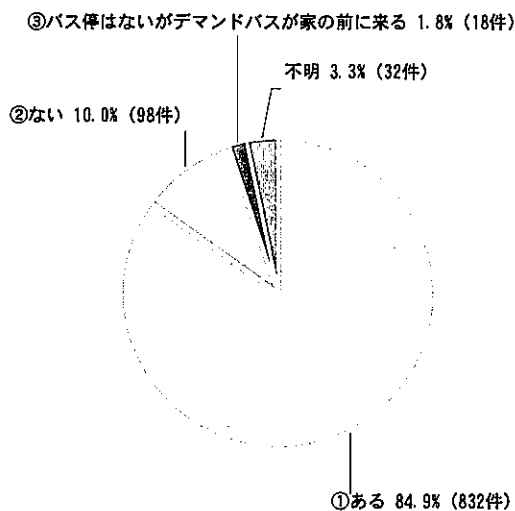


図 1-3 Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う所にあるか

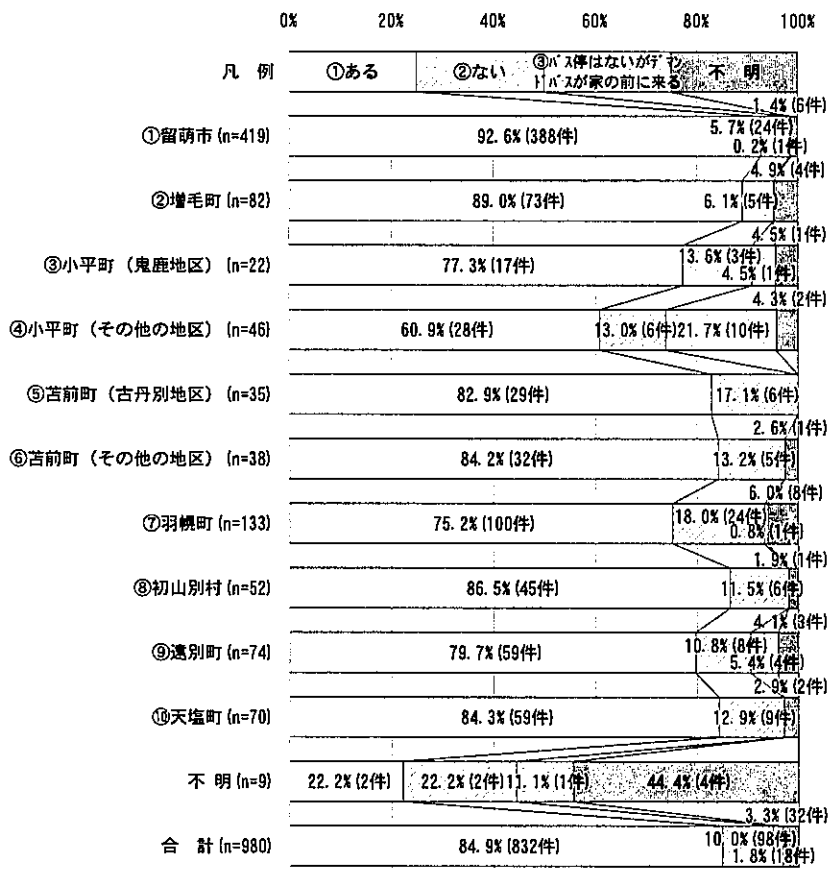


図 1-4 Q1.居住地域×Q2.最寄りのバス停は歩いて行こうと思う所にあるか

世帯人数は2人と答えた割合が最も多く45.6%となっており、世帯の年齢構成は40歳以上が7割となっています。また、世帯人数ごとの年齢構成を見ると、1人世帯、2人世帯では構成員が65歳以上である割合が高く、高齢者の単身、夫婦の世帯が多くを占めていると考えられます。

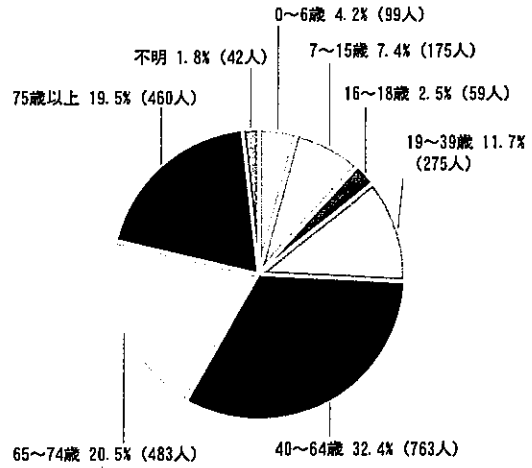
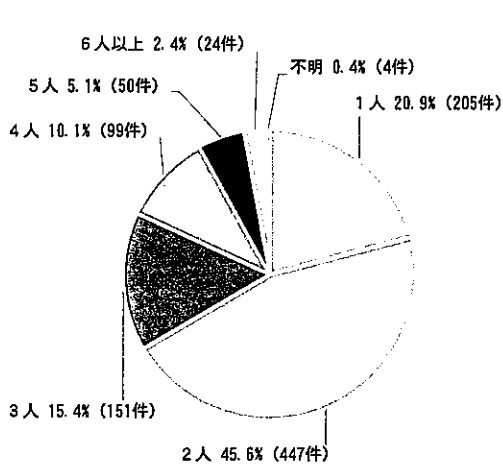


図 1-5 Q3-1.世帯人数

図 1-6 Q3-2.世帯の年齢構成

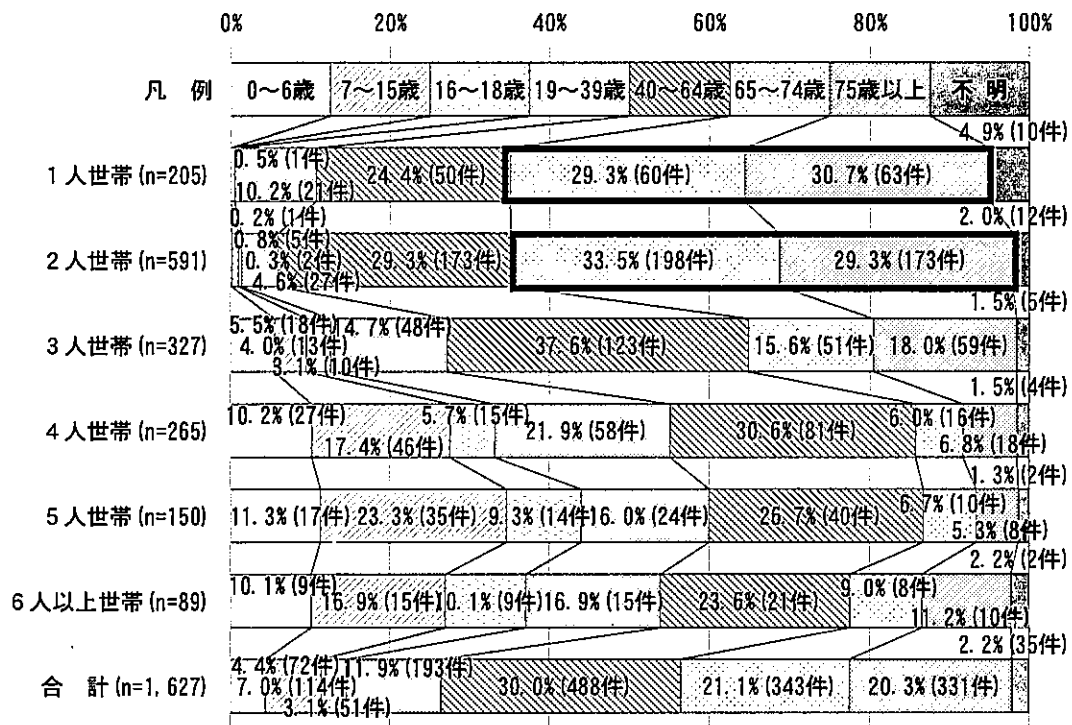


図 1-7 Q3-1.世帯人数×Q3-2.年齢

世帯内に運転が困難な方がいるかについては、いると答えた割合が27.8%となっています。また、回答者の年齢は50歳以上が約7割となっています。居住地別に見ると、小平町は49歳以下の回答者が多い一方、初山別村は、65歳以上の回答者が多くなっています。

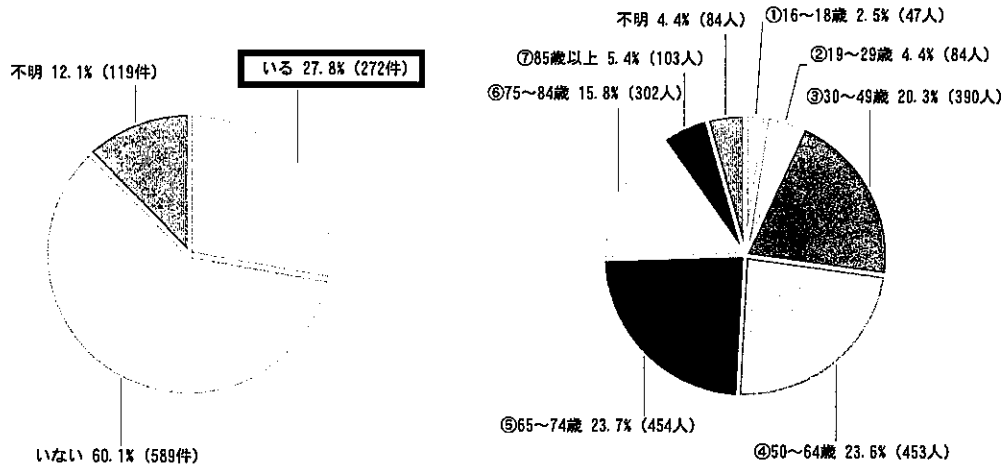


図 1-8 Q3-3.運転が困難な方の有無

図 1-9 Q4.回答者の年齢

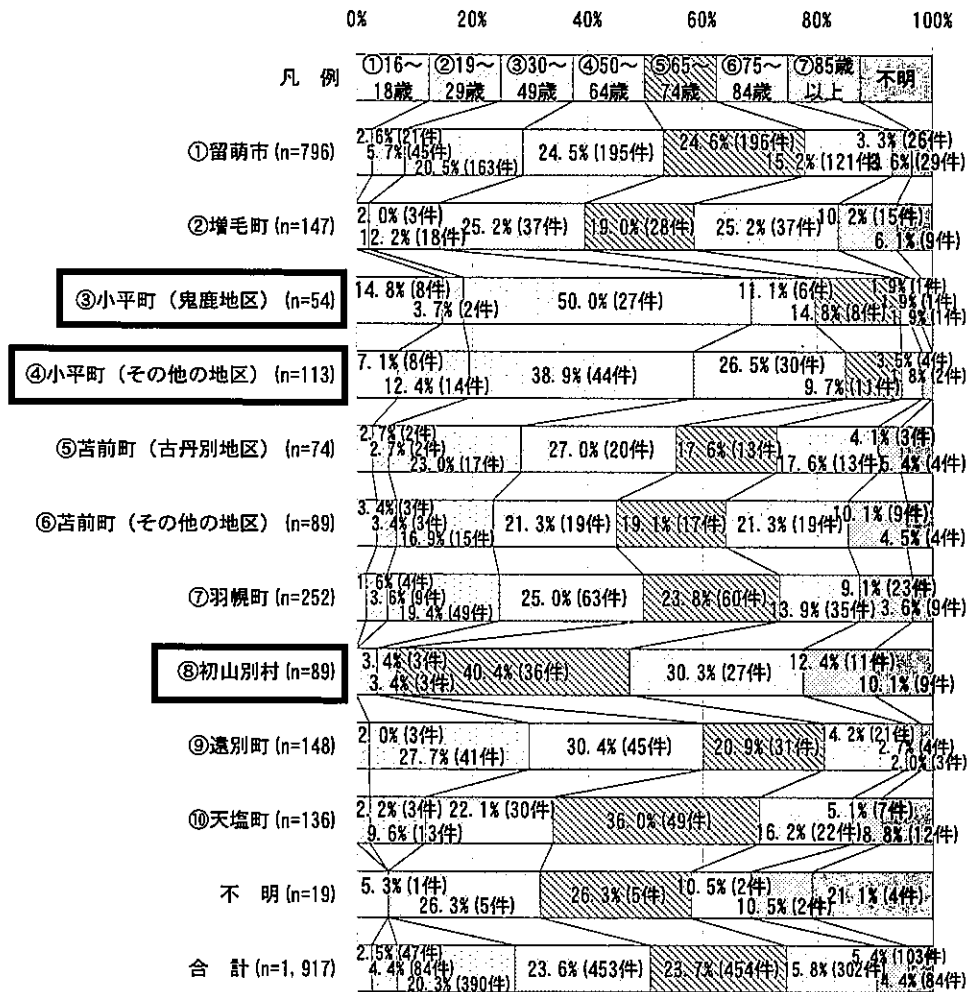


図 1-10 Q1.居住地域×Q4.回答者の年齢

回答者の性別はほぼ半数ずつと、バランスよく回答が得られています。

運転免許の所持状況については持っていると答えた割合が多く、75.4%となっています。また、年齢別に見ると、75歳以上では運転免許を持っていないと答えた割合が多くなっています。

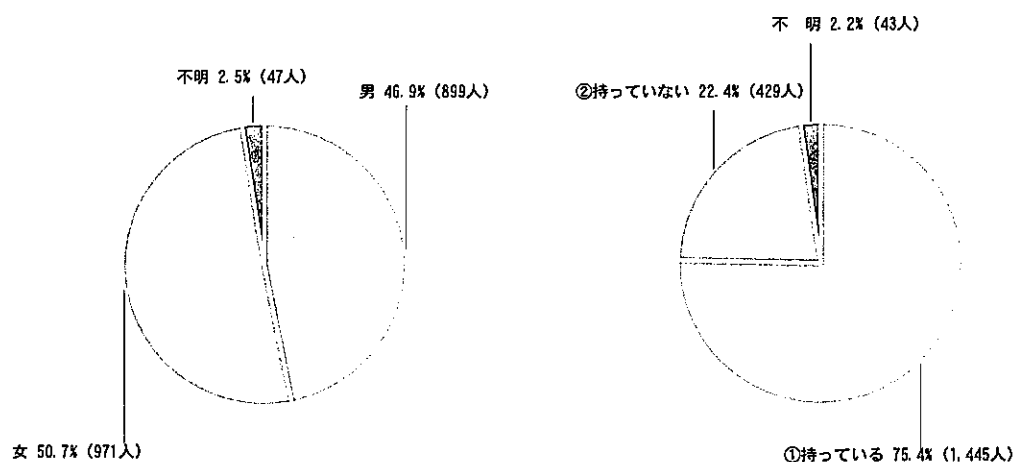


図 1-11 Q5.回答者の性別

図 1-12 Q6.回答者の運転免許の所持状況

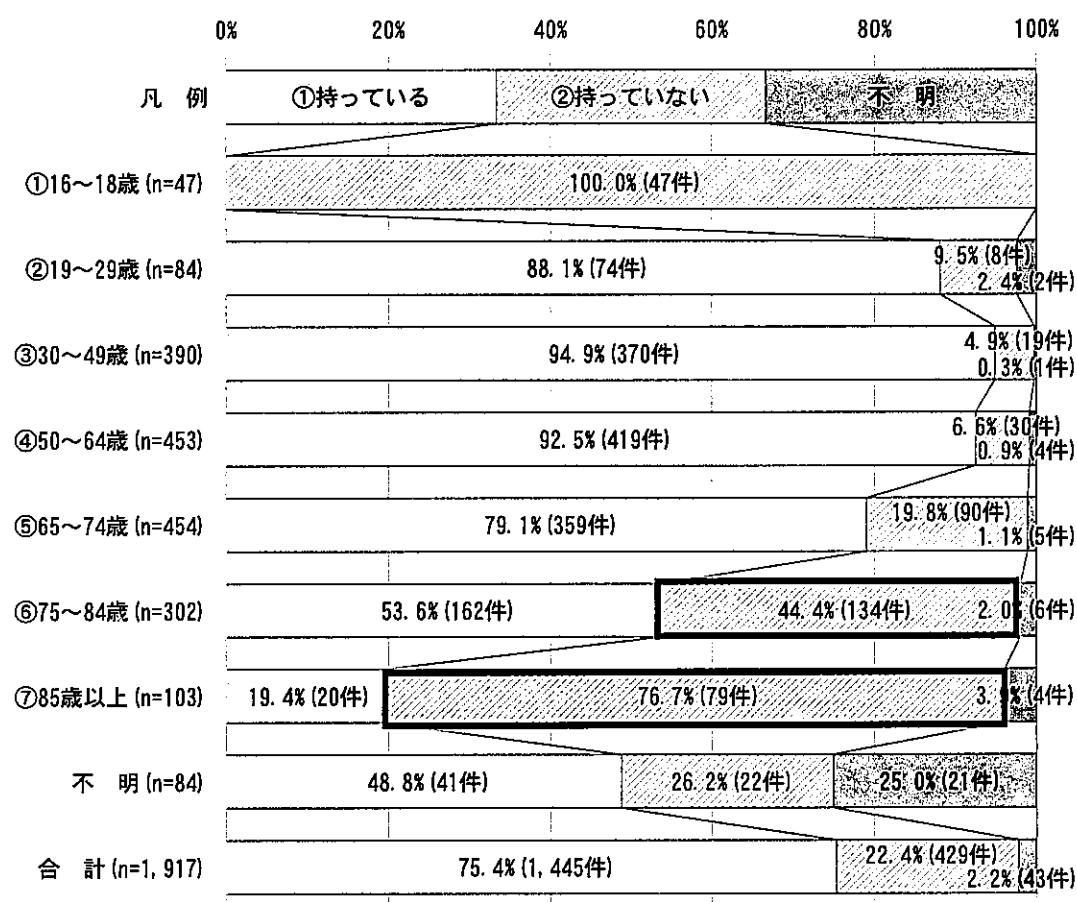


図 1-13 Q4.年齢×Q6.回答者の運転免許の所持状況

普段運転できる車については、持っていると答えた割合が90.7%と最も多く、30歳以上ではすべての世代で90%以上となっています。

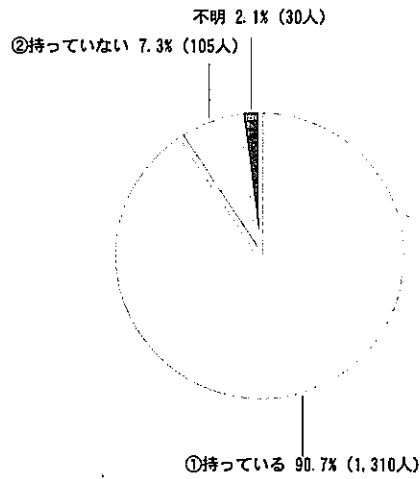


図 1-14 Q7.普段運転できる車を持っているか

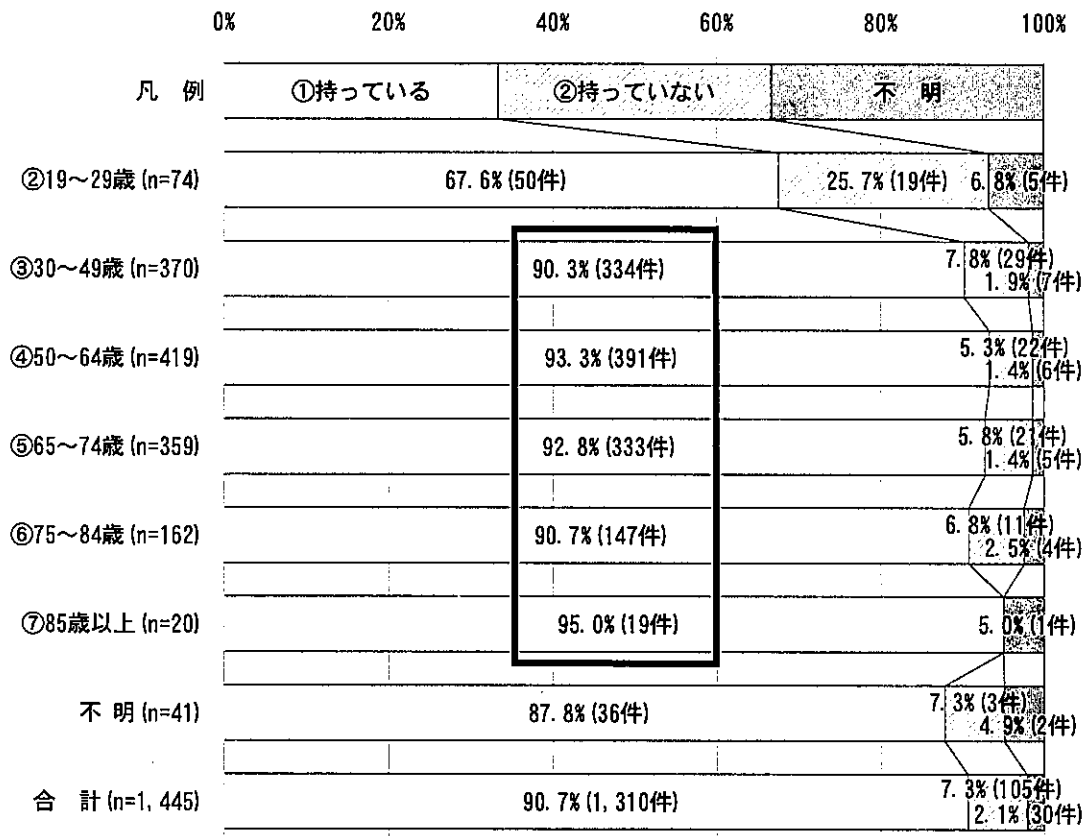


図 1-15 Q4.年齢×Q7.普段運転できる車を持っているか

自家用車を利用する理由については、いつでも利用できるからと答えた割合が多く 84.2%となっており、年齢別に見ても全世代で同様の結果となっています。また、いつでも利用できるから以外の回答を見ると、家族連れ等で乗車できる、荷物を気にせず移動できるが比較的多くなっています。

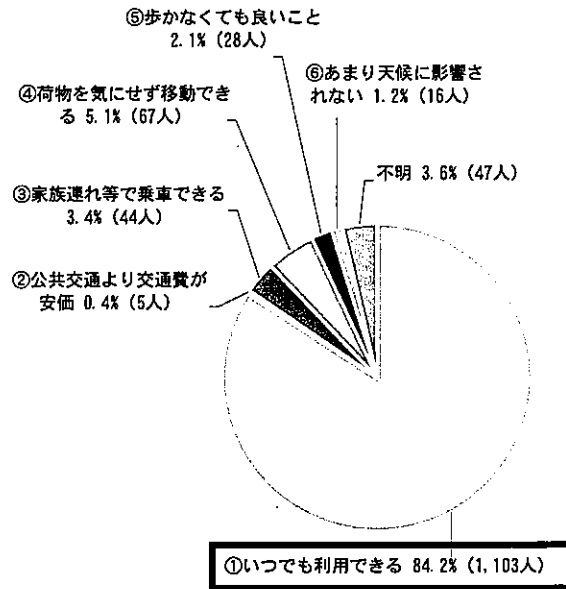


図 1-16 Q8-1.自家用車を利用する一番の理由 (Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答)

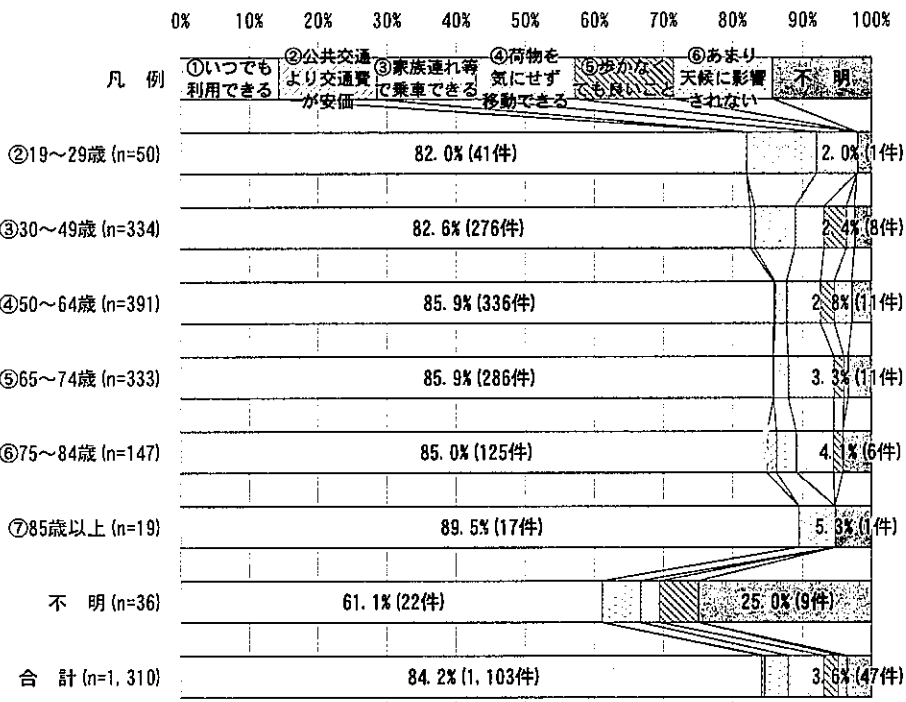


図 1-17 Q4.年齢×Q8-1.自家用車を利用する一番の理由

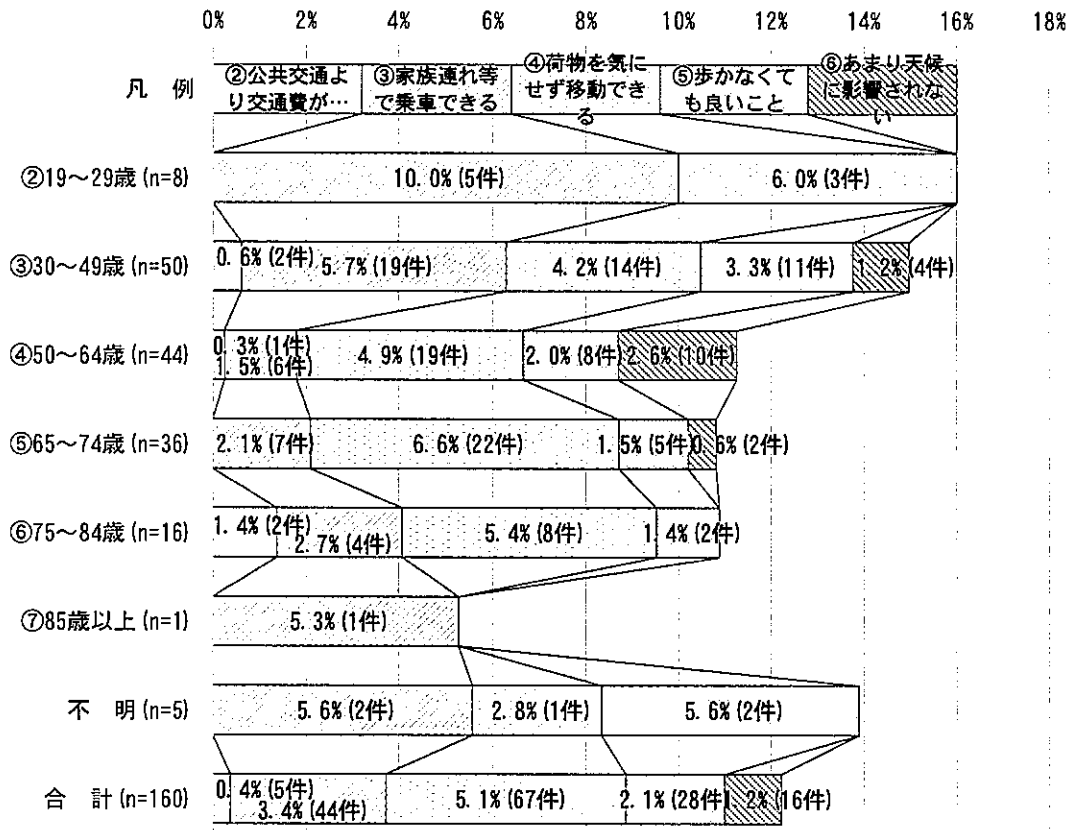


図 1-18 Q4.年齢×Q8-1.自家用車を利用する一番の理由(①と答えた回答を除いた割合)

何歳まで運転したいかについては、75～84歳と答えた割合が最も多く 57.5%となっており、年齢別に見ると、75歳以上では85歳を超えても運転を続けたいと答えている割合が非常に多くなっています。

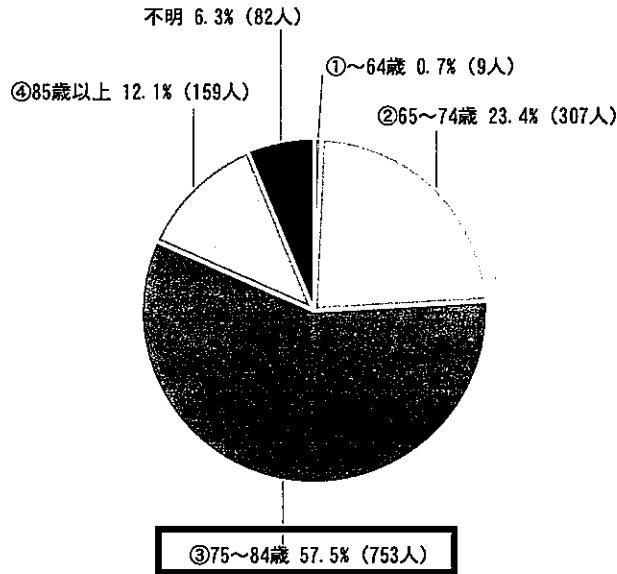


図 1-19 Q8-2-1.何歳まで運転したいか
(Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答)

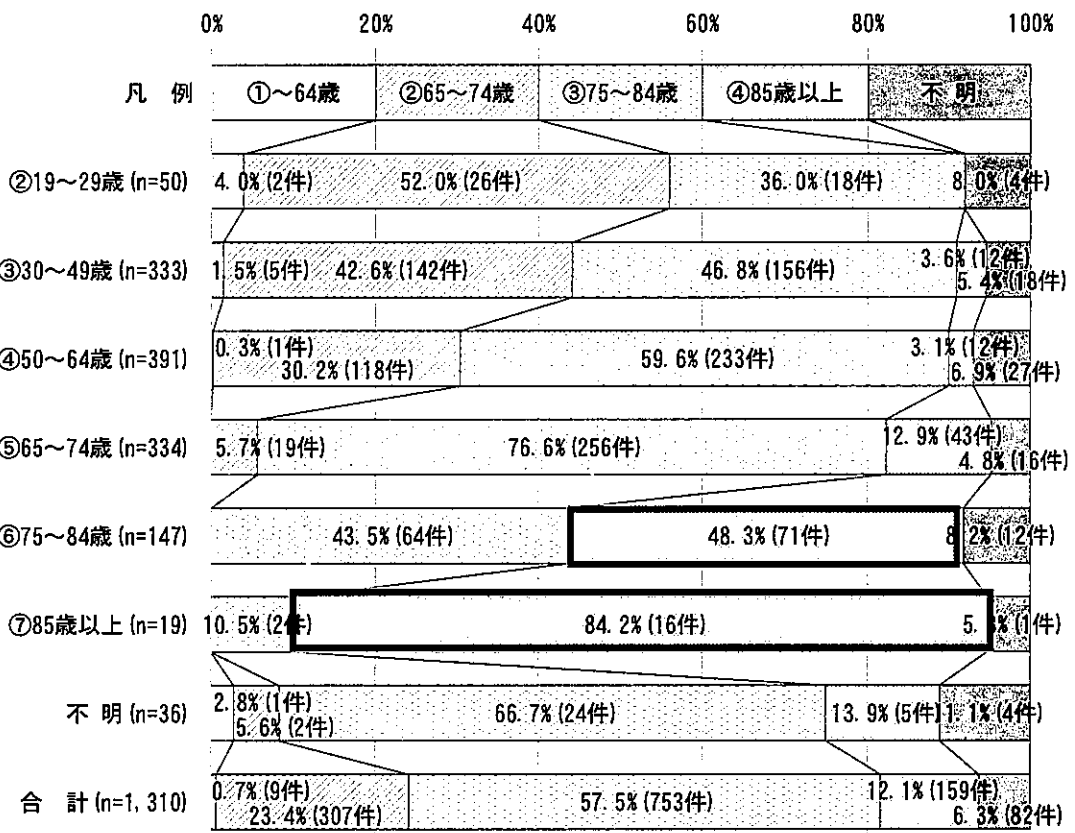


図 1-20 Q4.年齢×Q8-2-1.何歳まで運転したいか

運転が困難になった場合にはバス等を利用すると答えた割合が 52.7%と多くを占めています。また、居住地域別に見ると、小平町の鬼鹿地区、天塩町ではバス等を利用すると答えた割合が半数以上となっていますが、遠別町では 35.0%と比較的低くなっています。

また、年齢別に見てもバス等を利用すると答えた割合がほぼ全世代で半数程度となっています。

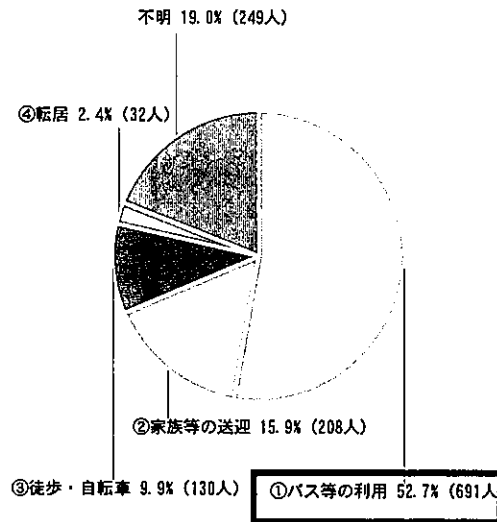


図 1-21 Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段 (Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答)

凡例	①バス等の利用	②家族等の送迎	③徒歩・自転車	④転居	⑤その他	不明
①留萌市 (n=517)	54.9% (284件)			14.7% (76件)	2.9% (15件)	18.0% (93件)
②増毛町 (n=94)	55.3% (52件)			9.6% (9件)	4.3% (4件)	27.7% (26件)
③小平町 (鬼鹿地区) (n=34)	67.6% (23件)				2.9% (1件)	17.6% (6件)
④小平町 (その他の地区) (n=90)	51.1% (46件)			11.1% (10件)		25.6% (23件)
⑤苫前町 (古丹別地区) (n=57)	49.1% (28件)			15.8% (9件)	19.3% (11件)	15.8% (9件)
⑥苫前町 (その他の地区) (n=59)	47.5% (28件)			15.3% (9件)	8.5% (5件)	25.4% (15件)
⑦羽幌町 (n=181)	52.5% (95件)			5.5% (28件)	3.3% (6件)	20.4% (37件)
⑧初山別村 (n=51)	54.9% (28件)			19.6% (10件)	2.0% (1件)	17.6% (9件)
⑨遠別町 (n=123)	35.0% (43件)	25.2% (31件)		19.5% (24件)	1.6% (2件)	18.7% (23件)
⑩天塩町 (n=97)	61.9% (60件)			10.6% (20件)	2.1% (2件)	9.3% (9件)
不明 (n=7)	57.1% (4件)			28.6% (2件)		14.3% (1件)
合計 (n=1,310)	52.7% (691件)			15.9% (208件)	2.4% (32件)	19.0% (249件)

図 1-22 Q1.居住地域×Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段

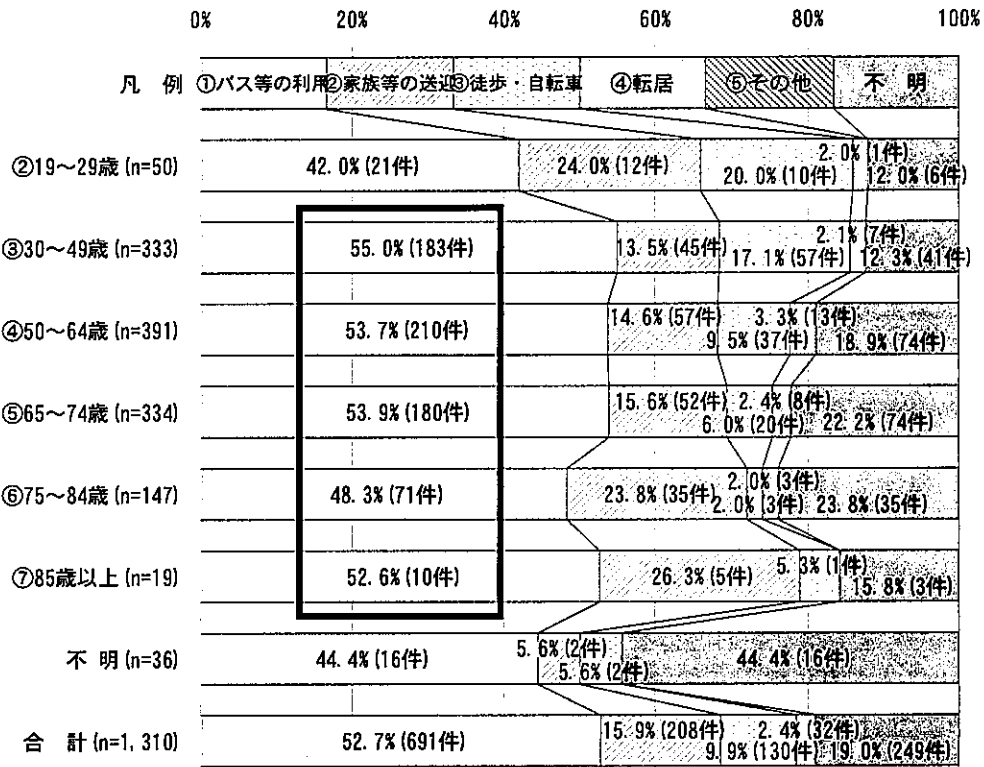


図 1-23 Q4.年齢×Q8-2-2.運転が困難になった場合の移動手段

冬や長距離運転に不安を持つときがあると答えた割合が多く、49.5%となっています。また、年齢別に見ても、全世代で同様の結果となっています。

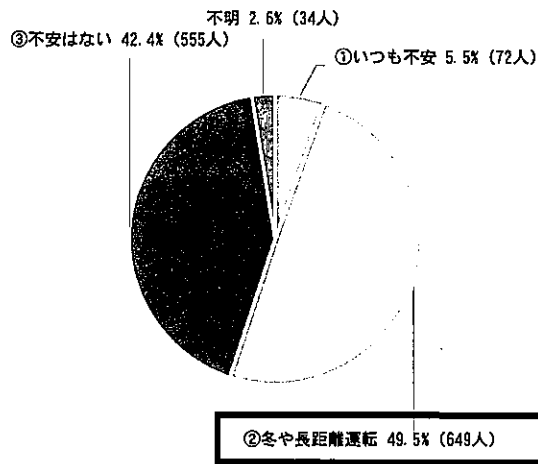


図 1-24 Q8-3.運転に不安を持つときがあるか (Q7で普段運転できる車を持っている方のみ回答)

凡例	①いつも不安	②冬や長距離運転	③不安はない	不明
②19~29歳 (n=50)	10.0% (5件)	56.0% (28件)	34.0% (17件)	
③30~49歳 (n=333)	4.8% (16件)	47.1% (157件)	45.9% (153件)	2.1% (7件)
④50~64歳 (n=391)	6.1% (24件)	47.3% (185件)	45.5% (178件)	1.0% (4件)
⑤65~74歳 (n=334)	5.4% (18件)	53.3% (178件)	38.3% (128件)	3.0% (10件)
⑥75~84歳 (n=147)	5.4% (8件)	54.4% (80件)	36.1% (53件)	4.1% (6件)
⑦85歳以上 (n=19)		57.9% (11件)	36.8% (7件)	5.3% (1件)
不明 (n=36)	2.8% (1件)	27.8% (10件)	52.8% (19件)	16.7% (6件)
合計 (n=1,310)	5.5% (72件)	49.5% (649件)	42.4% (555件)	2.6% (34件)

図 1-25 Q4.年齢×Q8-3.運転に不安を持つときがあるか

不安に答えてあげる

運転時の不安を感じる内容としては、冬と長距離の両方の運転が不安、冬の運転が不安と答えた割合がそれぞれ 45%程度となっており、年齢別に見ると、年齢を増すごとに両方が不安だと答えている割合が増加しています。

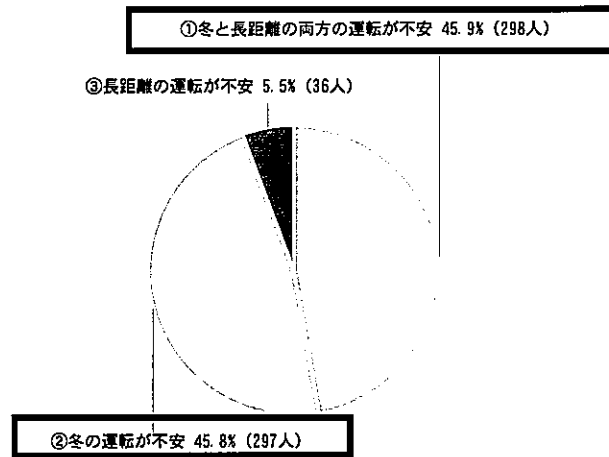


図 1-26 Q8-4.運転について、不安な内容 (Q8-3 で冬や長距離の運転が不安と回答したのみ回答)

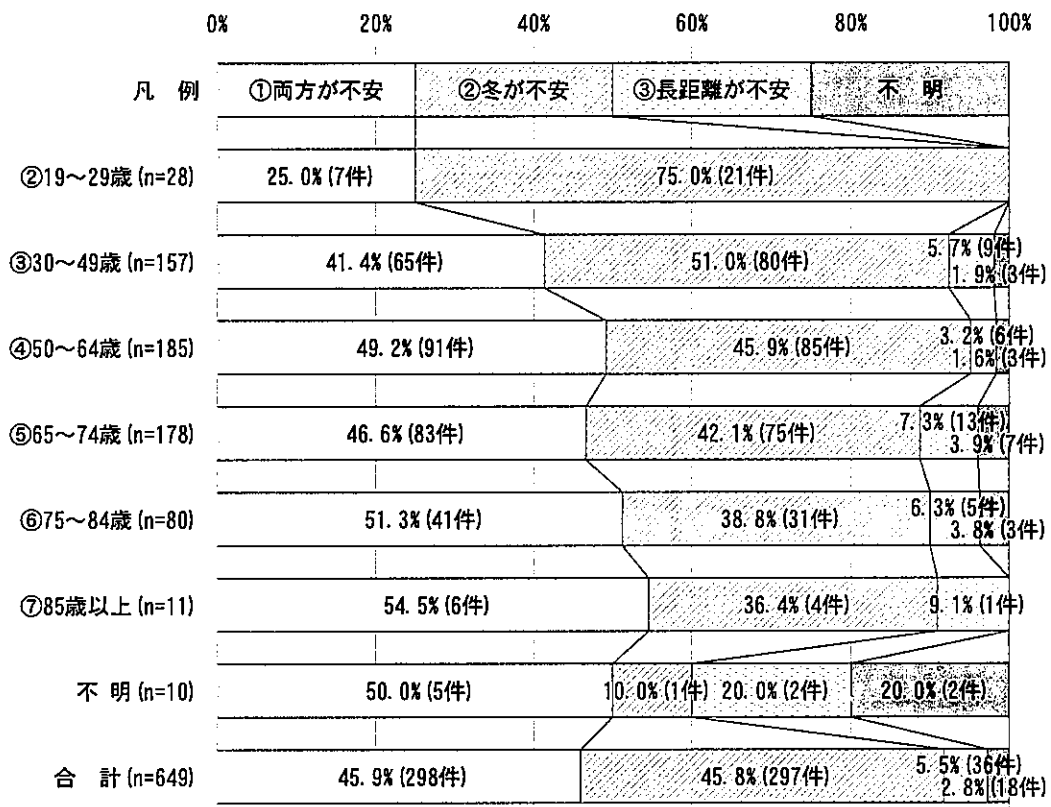


図 1-27 Q4.年齢×Q8-4.運転について、不安な内容

事故を回避できる自信について、自身があると答えた割合が41.4%となっており、85歳以上では半数以上となっています。

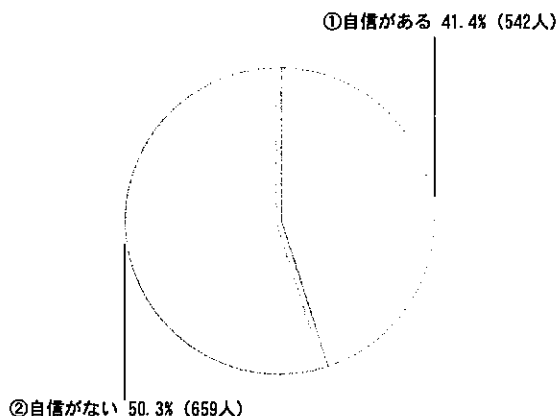


図 1-28 Q8-5.事故を回避できる自信があるか (Q7 で普段運転できる車を持っている方のみ回答)

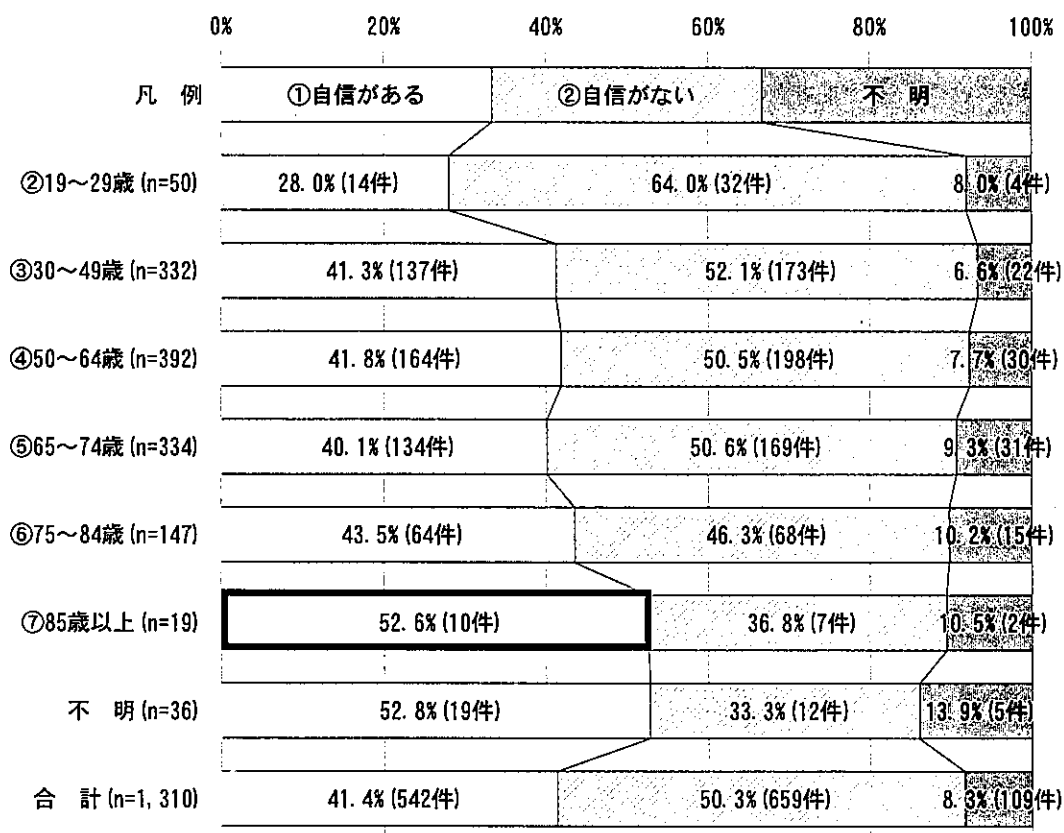


図 1-29 Q4.年齢×Q8-5.事故を回避できる自信があるか

免許返納の特典があれば返納しやすいと答えている割合が 28.5%となっており、少し返納しやすいと合わせると半数以上となっています。

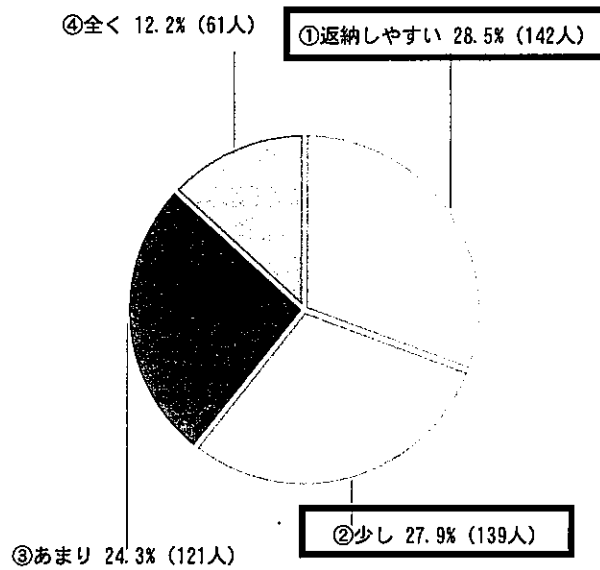


図 1-30 Q8-6.免許返納の特典等があれば、返納しやすくなるか
(Q7 で普段運転できる車を持っていると回答しており、65 歳以上の方のみ回答)

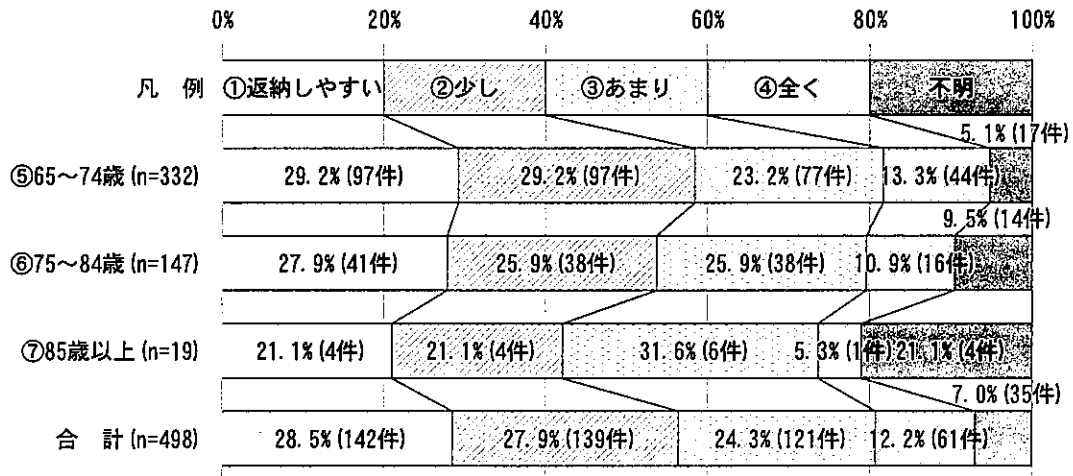


図 1-31 Q4.年齢×Q8-6.免許返納の特典等があれば、返納しやすくなるか

自分以外が運転する自家用車では車を使用できないと答えている割合が 14.6%となっています。

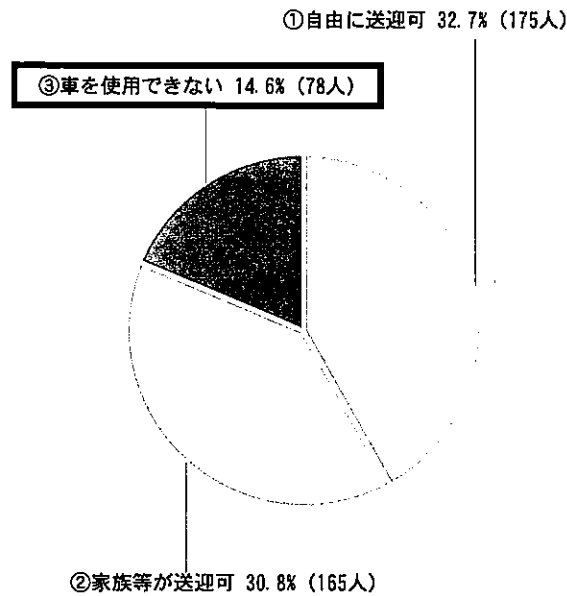
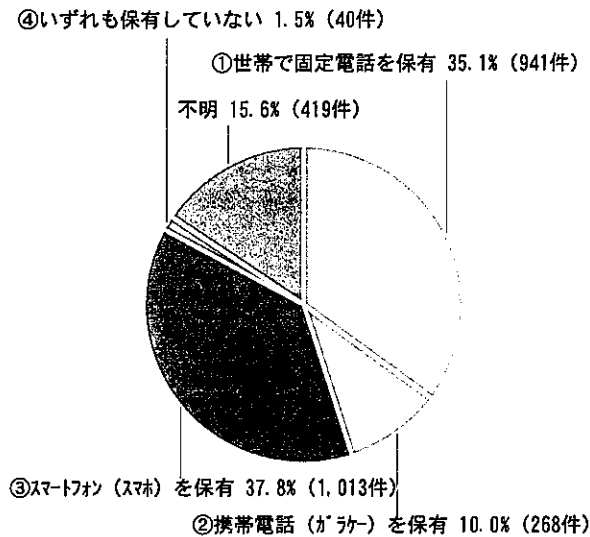


図 1-32 Q9.自分以外が運転する自家用車での移動状況
(Q6 で自動車運転免許証を持っていないと回答した、
もしくは Q7 で普段運転できる車を持っていないと回答した方のみ回答)

凡 例	①自由に送迎可	②家族等が送迎可	③車を使用できない	不明
①16~18歳 (n=47)	48.9% (23件)		42.6% (20件)	8.5% (4件)
②19~29歳 (n=27)	33.3% (9件)	33.3% (9件)	18.5% (5件)	14.8% (4件)
③30~49歳 (n=48)	37.5% (18件)	27.1% (13件)	18.8% (9件)	16.7% (8件)
④50~64歳 (n=52)	30.8% (16件)	42.3% (22件)	9.6% (5件)	17.3% (9件)
⑤65~74歳 (n=111)	29.7% (33件)	27.9% (31件)	13.5% (15件)	28.8% (32件)
⑥75~84歳 (n=145)	31.7% (46件)	26.2% (38件)	19.3% (28件)	22.8% (33件)
⑦85歳以上 (n=79)	32.9% (26件)	29.1% (23件)	15.2% (12件)	22.8% (18件)
不 明 (n=26)	15.4% (4件)	34.6% (9件)	15.4% (4件)	34.6% (9件)
合 計 (n=535)	32.7% (175件)	30.8% (165件)	14.6% (78件)	21.9% (117件)

図 1-33 Q4.年齢×Q9.自分委が運転する自家用車での移動状況

電話の所持状況についてはスマートフォンを保有していると答えている割合が最も多く、37.8%となっています。また、年齢別に見ると、年齢が増すごとにスマートフォンの所持率が下がっていますが、携帯電話は所持している状況となっています。



参考:固定電話を持っている世帯は460世帯

図 1-34 Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況

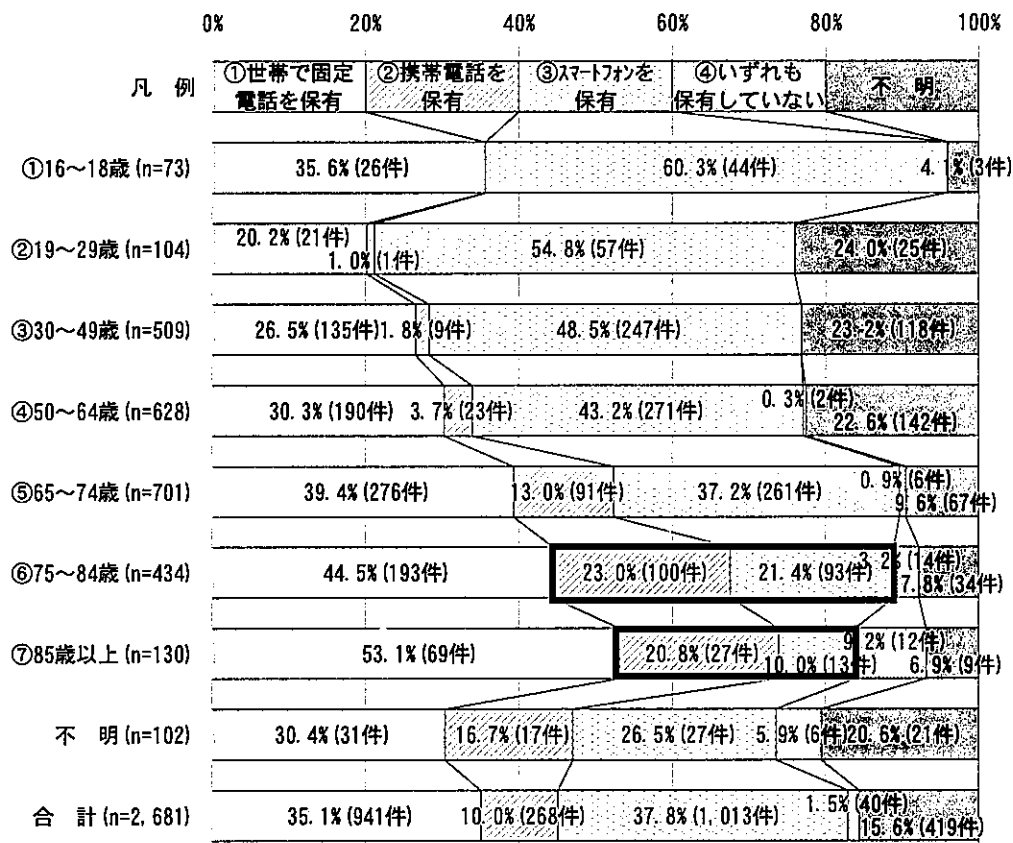


図 1-35 Q4.年齢×Q10.固定電話、携帯電話、スマートフォンの所持状況

③ 公共交通などによる日常的な外出について

各公共交通の利用について、地域内では利用しないと答えた割合が多いですが、沿岸バスの特急はぼろ号、高速るもい号については、年に数回利用すると答えている方も比較的にみられます。

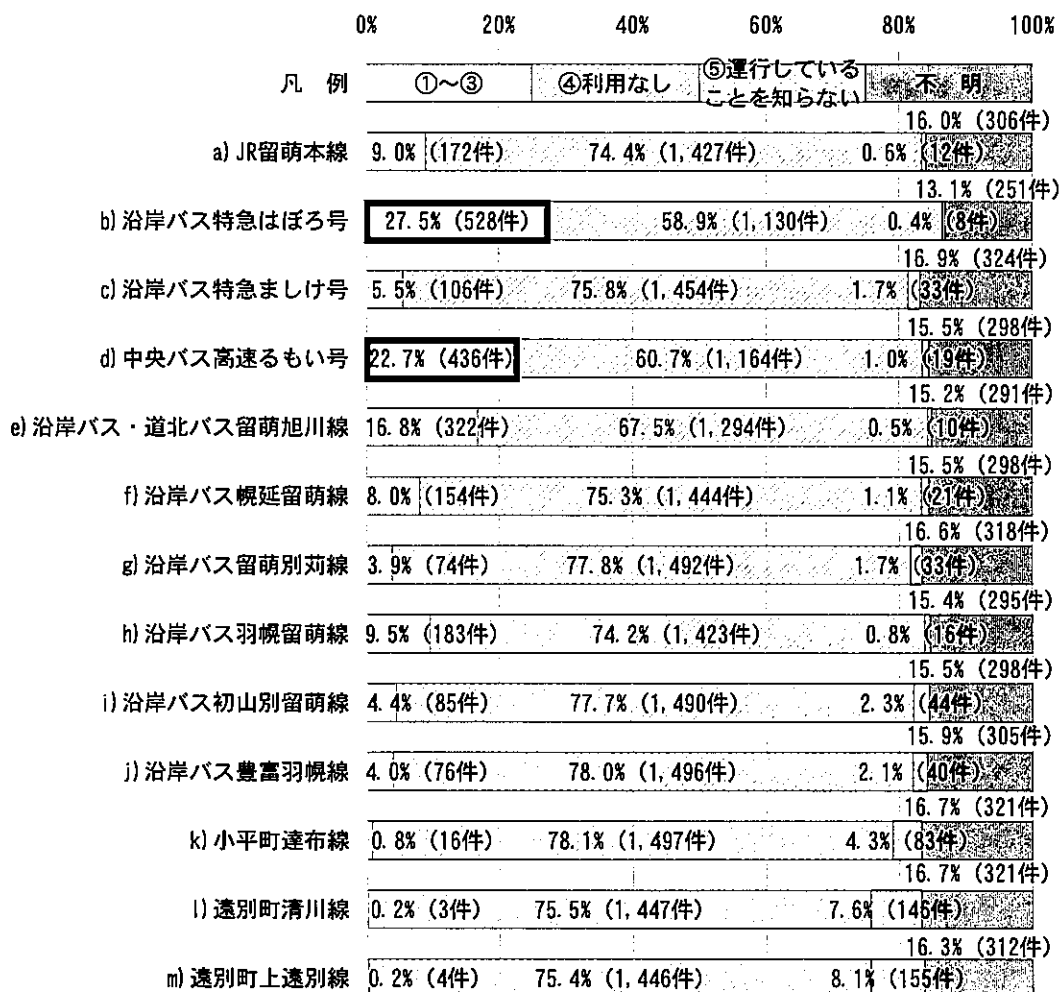


図 1-36 Q11.公共交通の利用及び認知状況(1/2)

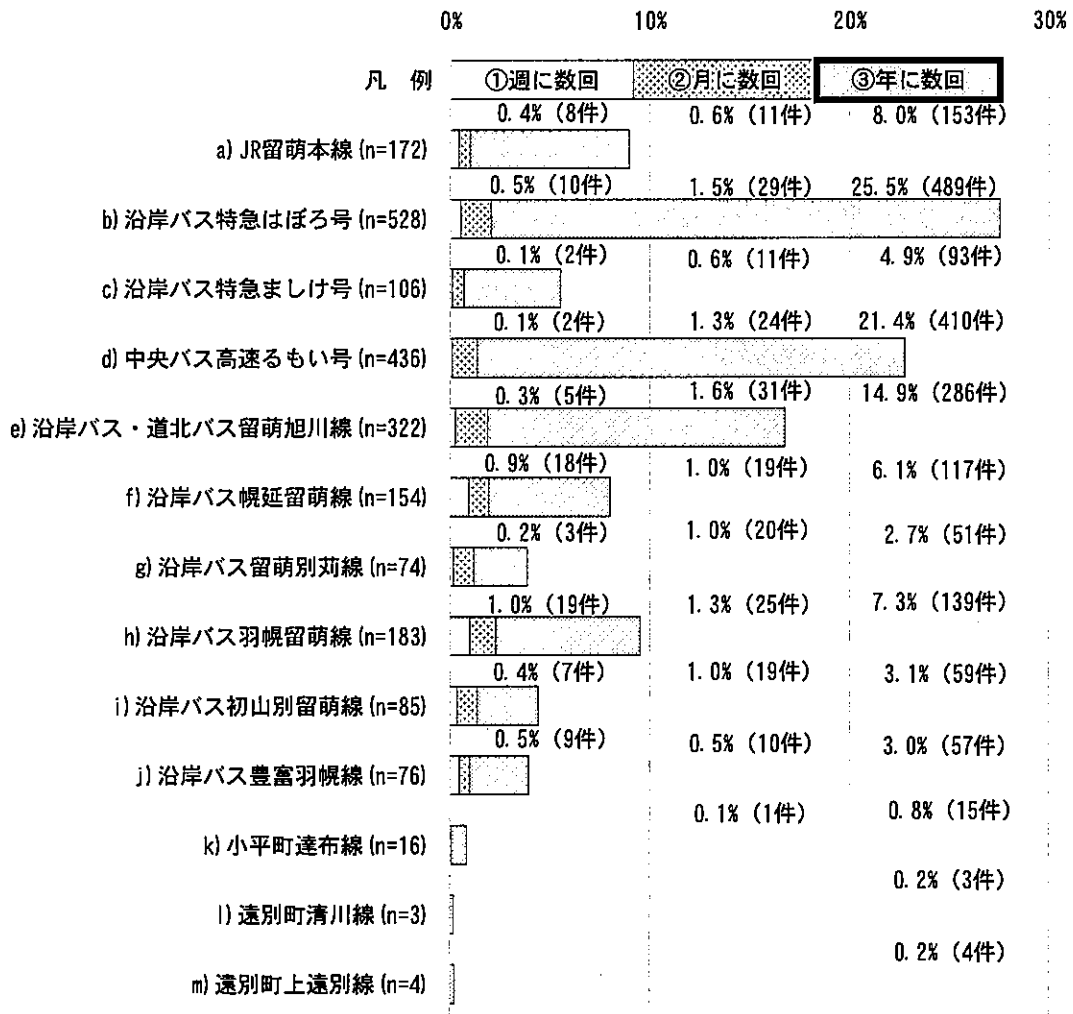


図 1-37 Q11.公共交通の利用及び認知状況(2/2)

直近 1 週間の外出の目的について、通勤が 52.7%と半数を占めていますが、買物・飲食も 20.7%と、比較的多くなっています。また、曜日別に見ると平日は通勤、通学、通院が多い一方、休日には買い物・飲食、レジャー・レクリエーション、観光が多くなっています。

また、買い物・飲食、通院については週 1.2 から 1.5 日程度の頻度となっています。

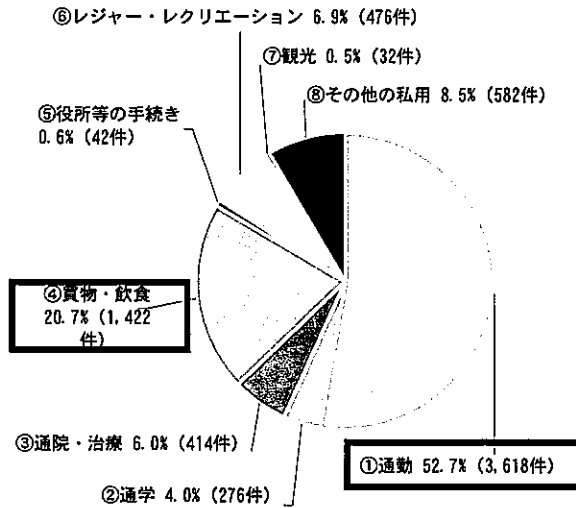


図 1-38 Q12-1-1.主な外出の目的



図 1-39 Q12-1-2.曜日別の主な外出の目的

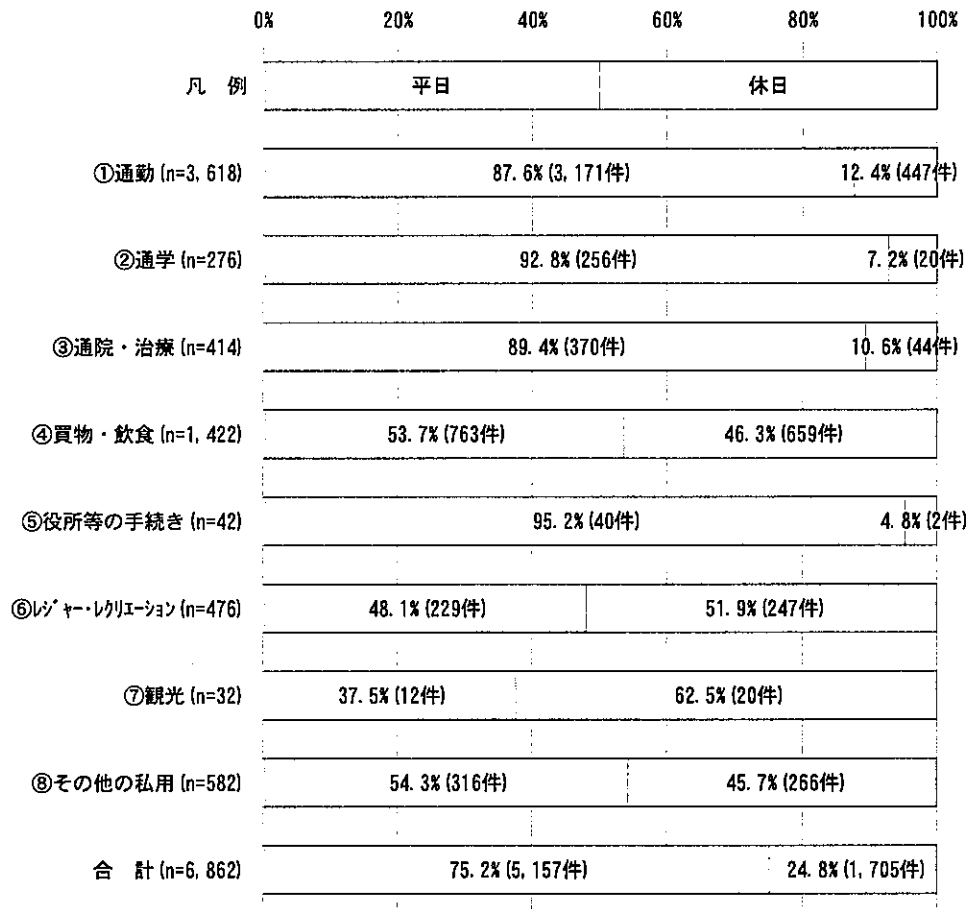


図 1-40 Q12-1-3.平日、休日別の主な外出の目的

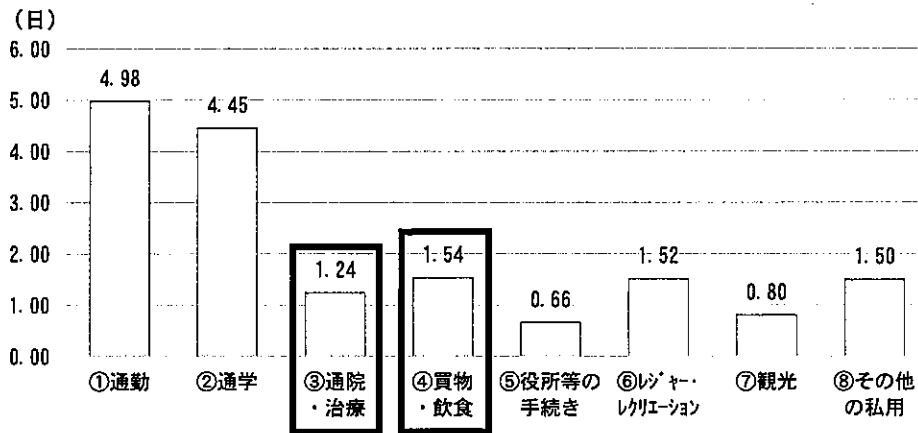


図 1-41 Q12-1-4.目的別の1週間当たりの外出日数

外出時、家を出た時間については8時台、帰宅の時間については18時台が最も多くなっています。また、平日の方が外出している人が多い状況です。

目的別に見ると、出発も帰宅も通勤が多くなっていますが、9時以降には買物・飲食も比較的にみられます。

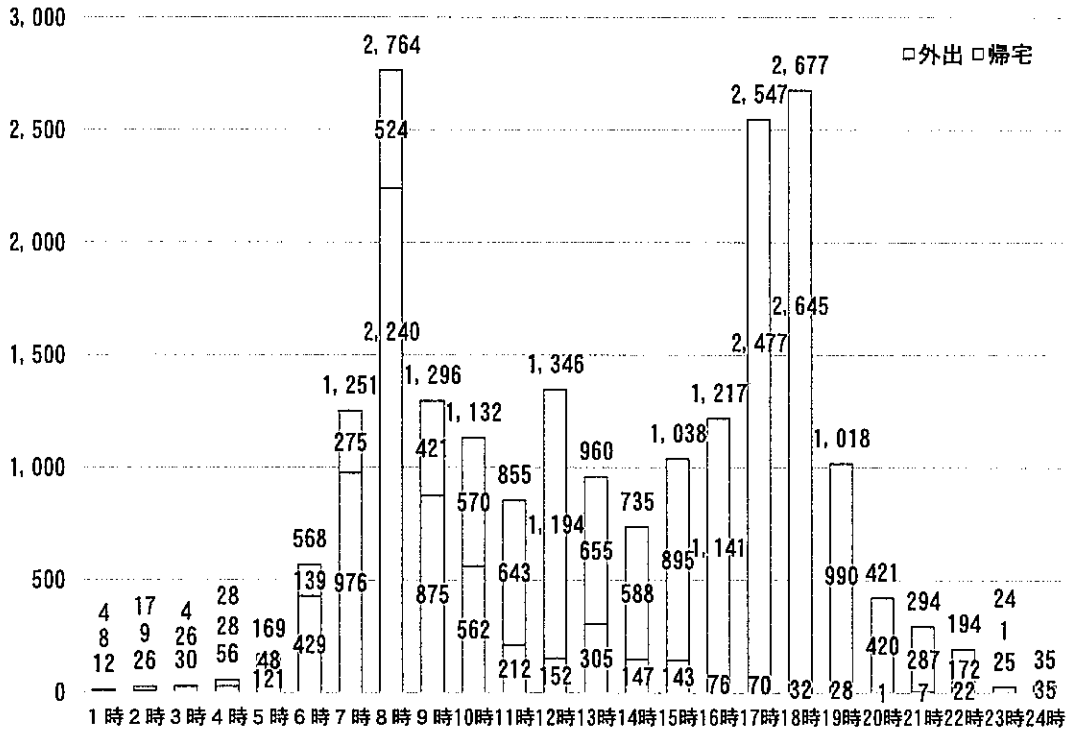


図 1-42 Q12-2-1.家を出た時間、帰宅した時間

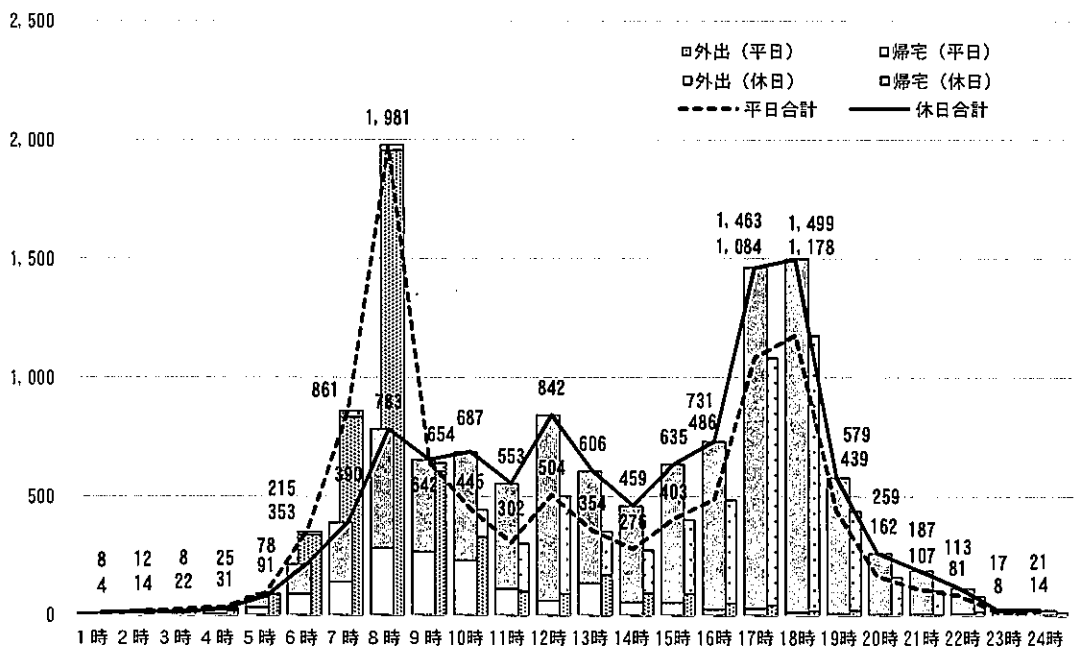


図 1-43 Q12-2-2.平日、休日別の家を出た時間、帰宅した時間

外出時の行先については平日休日問わず留萌市が最も多くなっています。また、羽幌町も比較的多く回答されている状況です。

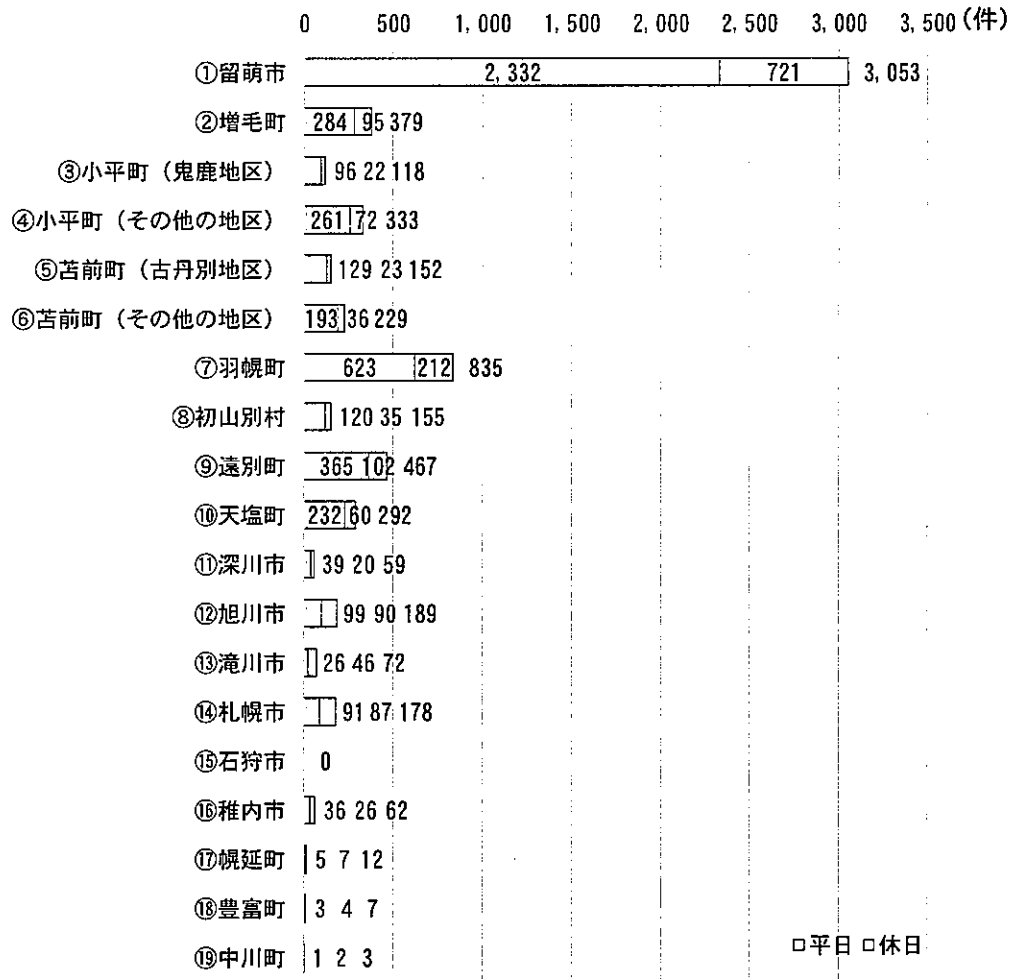


図 1-44 Q12-3.平日、休日別の外出時の行先

通勤においては、留萌市に多くが集中していますが、中部では羽幌町にも集まっている状況です。北部では天塩町と宗谷地域との行き来も比較的多くみられます。

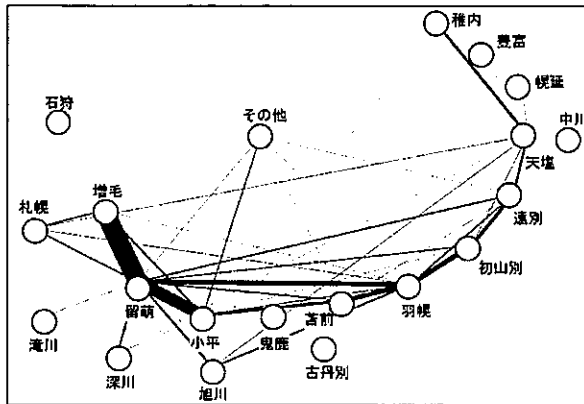


図 1-45 通勤目的交通分布図

市町村	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
留萌市	2,710	93	27	54	11	5	3	9	14	0	4,838	17	23	0	0	0	0	0	0	0	2,845,969
天塩町	114	216	0	10	0	0	0	0	0	0	0	472	0	0	14	0	0	0	0	0	16,468
2宗谷地方 (稚内地区)	46	0	121	42	18	14	19	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,887
4小樽市 (豊原地区)	74	0	0	363	0	0	0	0	0	0	448	2	7	0	0	0	0	0	0	0	4,857
4小樽市 (その他の地域)	0	0	1	0	134	154	118	0	0	0	278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,230
10宗谷地方 (その他の地域)	7	0	18	0	0	171	27	0	0	0	218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,340
2空知郡	14	0	0	0	21	24	655	43	19	0	778	0	17	0	0	0	0	0	0	0	2,793
6空知郡 (その他の地域)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
3十勝郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10空知郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10空知郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	3,078	429	378	473	184	218	889	369	529	21	47	23	0	0	0	0	0	0	0	0	149,672
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,078	429	378	473	184	218	889	369	529	21	47	23	0	0	0	0	0	0	0	0	149,672

表 1-2 通勤目的OD表

通学については留萌市に集中している状況です。また、中部以北に関してはほぼ移動がない状況となっています。

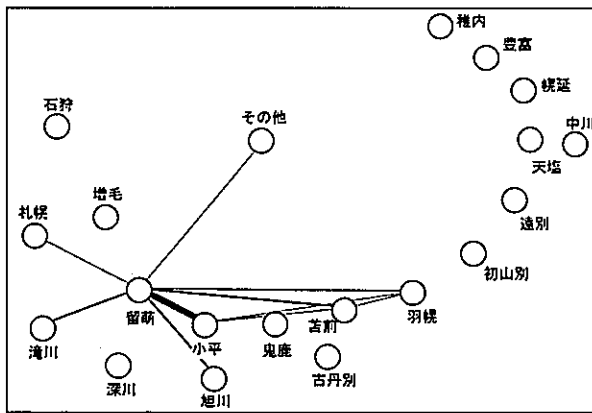


図 1-46 通学目的交通分布図

市町村	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
留萌市	177	0	0	0	0	0	0	0	0	17	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	54
2空知郡	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3小樽市 (豊原地区)	64	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74
4小樽市 (その他の地域)	54	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
5宗谷地方 (稚内地区)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5宗谷地方 (その他の地域)	23	0	0	5	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
7空知郡	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
8空知郡 (その他の地域)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9空知郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10宗谷地方	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	294	1	0	15	0	60	0	0	0	411	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	106
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	294	1	0	15	0	60	0	0	0	411	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	106

表 1-3 通学目的OD表

通院に関しては南部、羽幌町、遠別町から札幌へ通院している状況が伺えるほか、地域内では中部、南部は留萌市、北部は天塩町に集中している状況です。

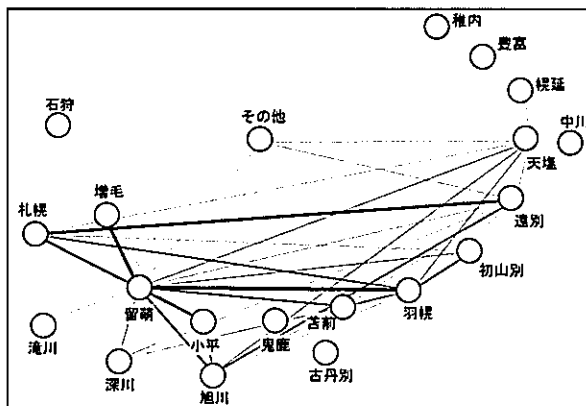


図 1-47 通院・治療目的交通分布図

市町村	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
留萌市	294	0	0	0	0	0	0	0	0	294	7	19	23	0	0	0	0	0	0	0	343
2空知郡	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3小樽市 (豊原地区)	26	0	0	0	0	0	0	0	0	26	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	38
4小樽市 (その他の地域)	26	0	0	0	0	0	0	0	0	26	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	38
5宗谷地方 (稚内地区)	0	0	0	13	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
5宗谷地方 (その他の地域)	16	0	0	2	7	11	0	0	0	36	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	63
7空知郡	40	0	0	0	0	0	0	0	0	40	3	4	12	0	0	0	0	0	0	0	59
8空知郡 (その他の地域)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9空知郡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10宗谷地方	7	0	0	0	0	0	0	0	0	14	31	0	7	0	0	0	0	0	0	0	52
小計	344	3	0	15	0	64	0	0	0	411	19	53	35	0	0	0	0	0	0	0	154
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	344	3	0	15	0	64	0	0	0	411	19	53	35	0	0	0	0	0	0	0	154

表 1-4 通院・治療目的OD表

行きに利用した交通手段としては自家用車を自身で運転すると答えた割合が多くを占めています。また、次いで家族などによる送迎が多くみられ、公共交通の利用はほぼみられない状況です。

凡 例	□平 日 □休 日		0	2,000	4,000	6,000	8,000	10,000 (件)
	平 日	休 日						
①自家用車（自分で運転）	6,034	2,007	8,041					
②自家用車（家族などによる送迎）	687	441	1,128					
③タクシー	55							
④J R 函館本線	10							
⑤J R 留萌本線	14							
⑥沿岸バス特急はぼろ号	57							
⑦沿岸バス特急ましけ号	4							
⑧中央バス高速るもい号	18							
⑨沿岸バス・道北バス留萌旭川線	25							
⑩沿岸バス幌延留萌線	79							
⑪沿岸バス留萌別荘線	13							
⑫沿岸バス羽幌留萌線	117							
⑬沿岸バス初山別留萌線	25							
⑭沿岸バス豊富羽幌線	14							
⑮小平町達布線	0							
⑯遠別町清川線	3							
⑰遠別町上遠別線	0							
⑱沿岸バス留萌市内Aコース	59							
⑲沿岸バス留萌市内日東団地線	13							
⑳沿岸バス留萌峠下線	0							
㉑沿岸バス別荘雄冬線	4							
㉒沿岸バス上平古丹別線	9							
㉓沿岸バス羽幌古丹別線	18							
㉔沿岸バス天塩更岸線	0							
㉕沿岸バス幌延天塩線	2							
㉖その他	1,489	324	1,813					

図 1-51 Q12-4-1.行きに利用した交通手段

自家用車以外で帰りに利用した交通手段としては、羽幌留萌線、幌延留萌線、特急はぼろ号、留萌市内 A コース、タクシーが比較的多くみられます。

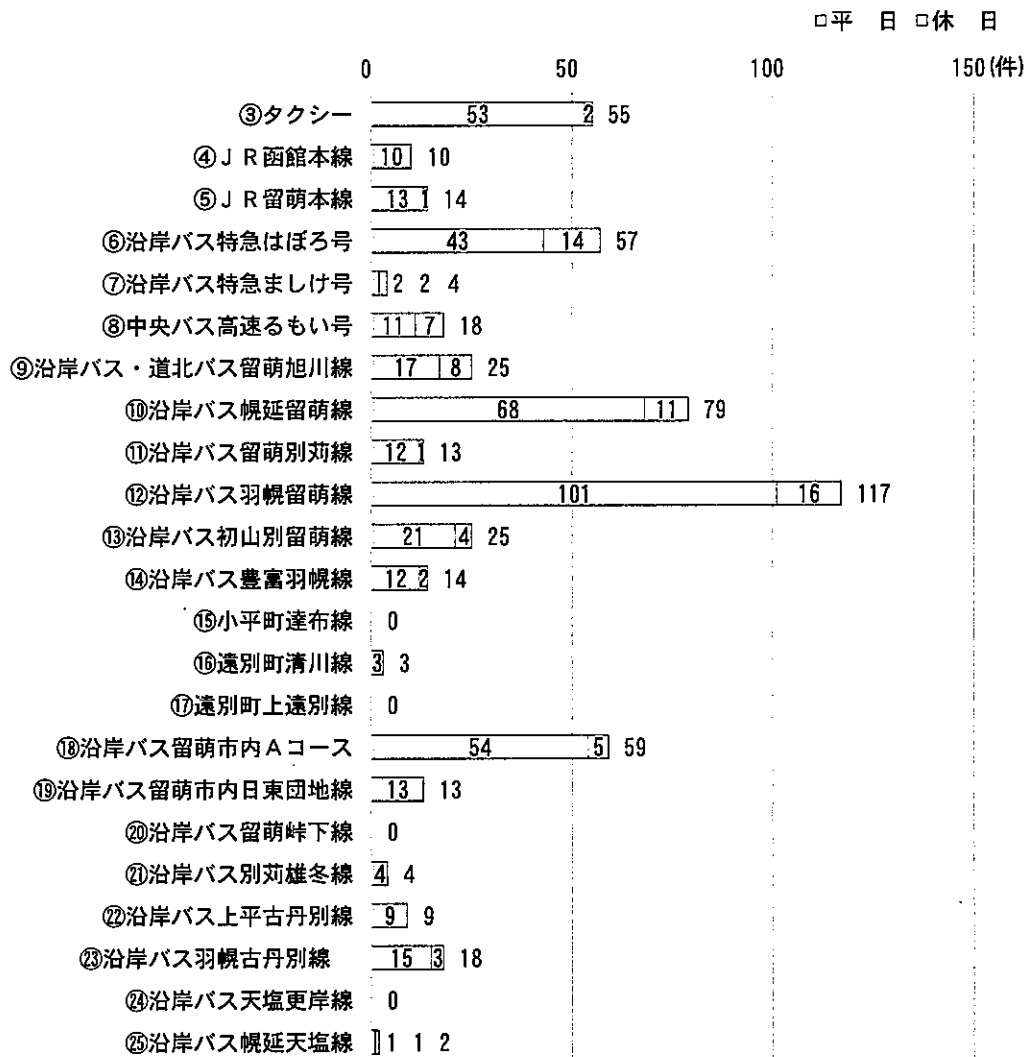


図 1-52 Q12-5-1.帰りに利用した交通手段

外出時に利用した交通手段としては平日、休日問わず自家用車が多くなっています。

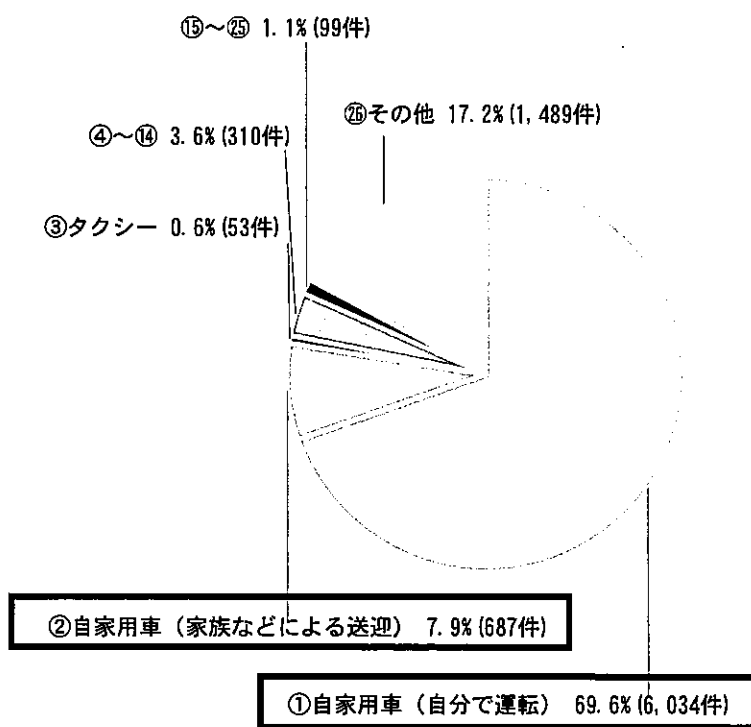


図 1-53 Q12-4-1.&12-5-1.平日に利用した交通手段

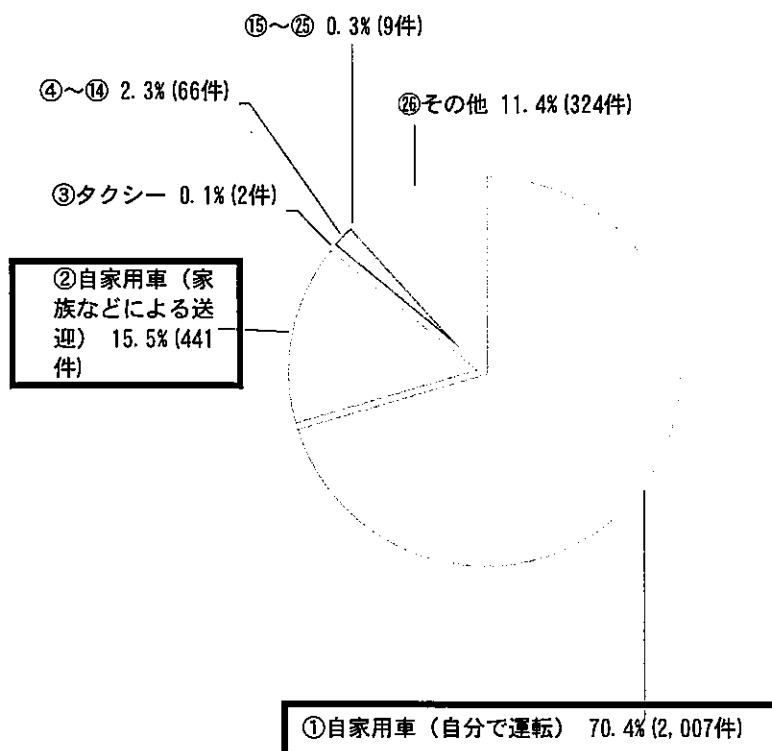


図 1-54 Q12-4-1.&12-5-1.休日に利用した交通手段

平日の地域内移動では、幌延留萌線、羽幌留萌線、留萌市内 A コース、羽幌古丹別線を利用している割合が比較的多くなっています。

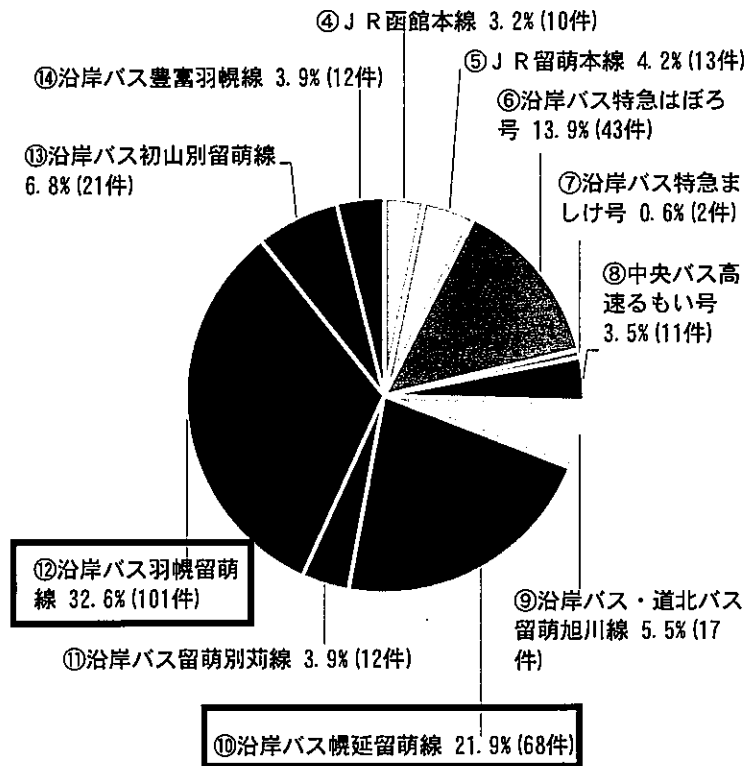


図 1-55 Q12-4-1.&12-5-1.平日の地域内移動の際に利用した交通手段④～⑭

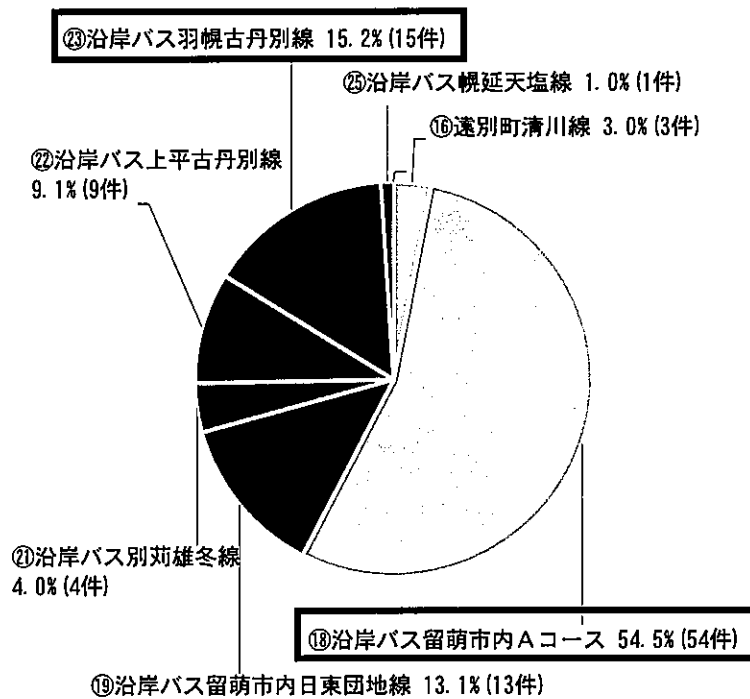


図 1-56 Q12-4-1.&12-5-1.平日の地域内移動の際に利用した交通手段⑮～㉑

休日の地域内移動では、特急はぼろ号、羽幌留萌線、留萌市内 A コース、羽幌古丹別線を利用している割合が比較的多くなっています。

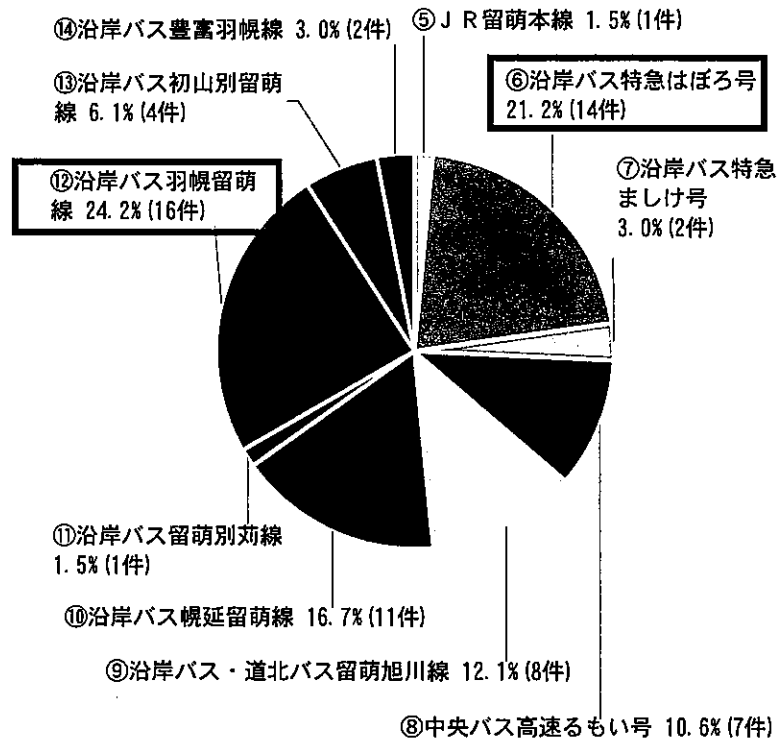


図 1-57 Q12-4-1.&Q12-5-1.休日の地域内移動の際に利用した交通手段④～⑭

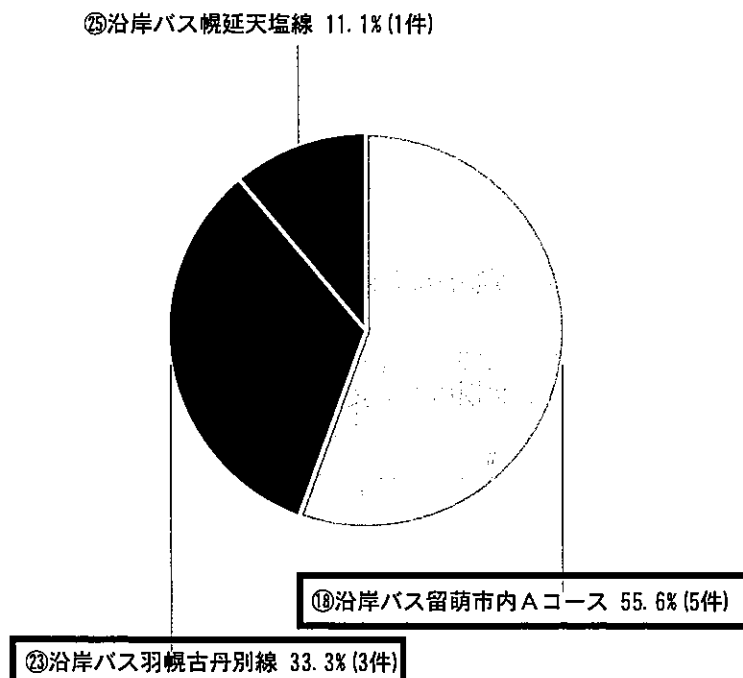


図 1-58 Q12-4-1.&Q12-5-1.休日の地域内移動の際に利用した交通手段⑮～⑳

バスより少し高い運賃で、自宅と目的地を結ぶ公共交通が運行する場合、この公共交通の利用に変えても良い曜日があるかについて、どの曜日でもほぼ同数の回答となっています。

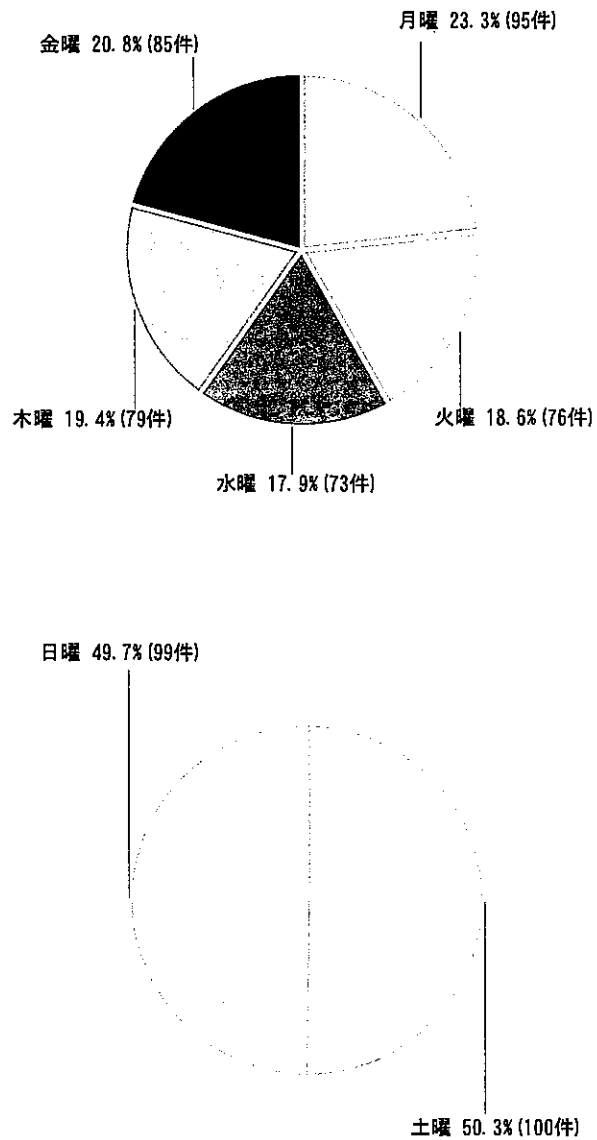


図 1-62 Q12-6.バスより少し高い運賃で、自宅と目的地を直接結ぶ公共交通が運行する場合、この公共交通の利用に変えても良い曜日はあるか(平日、休日)
(Q12-4-1.,Q12-5-1.自家用車で移動していると答えた方のみ回答)

実際に訪れた場所について、留萌市立病院、北海道留萌高等学校、マックスバリュ留萌店が多くなっています。

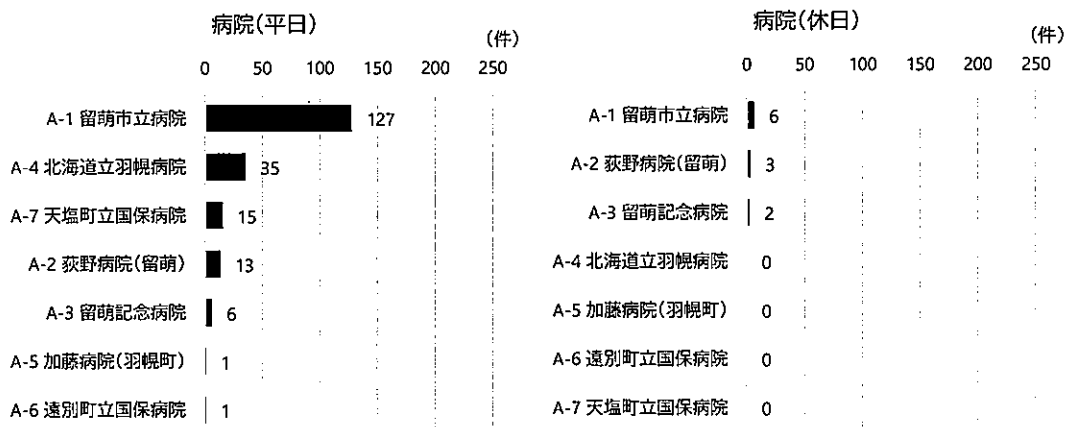


図 1-63 Q12-7-1.実際に訪れた病院(平日、休日)

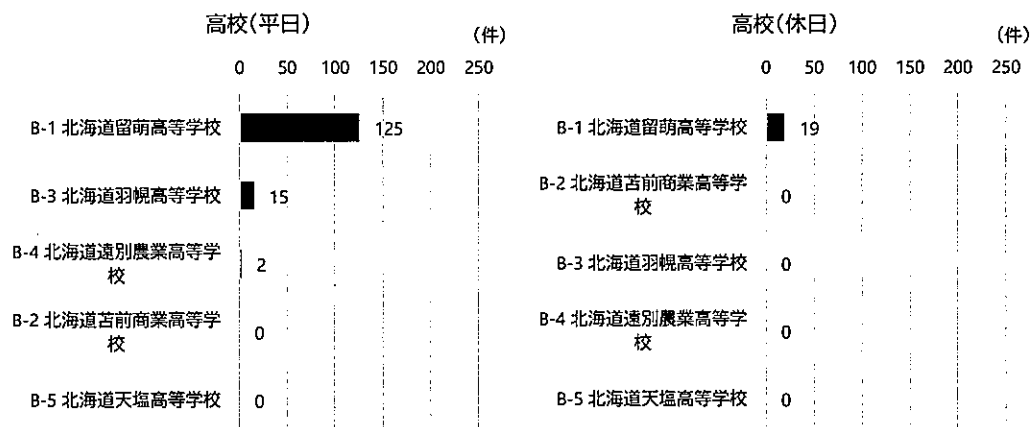


図 1-64 Q12-7-2.実際に訪れた高校(平日、休日)

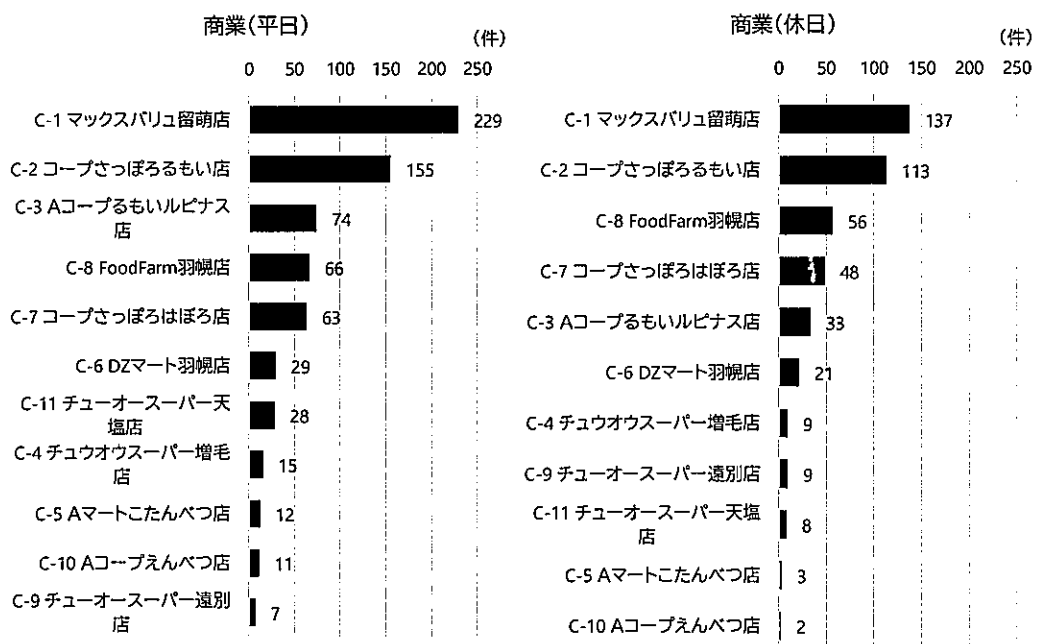


図 1-65 Q12-7-2.実際に訪れた商業施設(平日、休日)

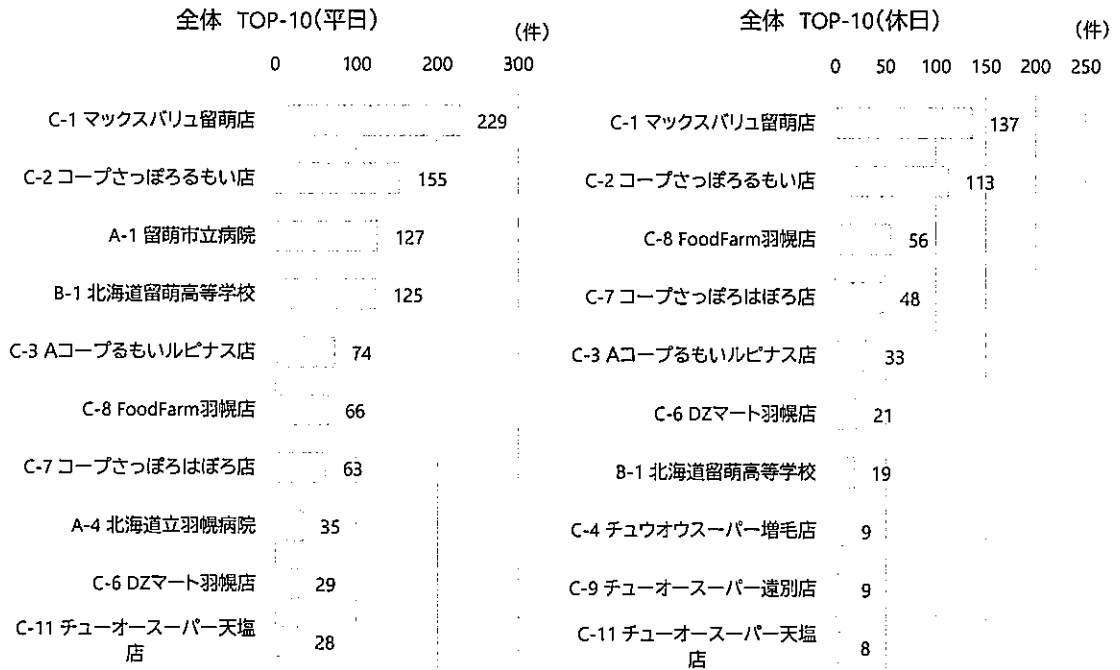


図 1-66 Q12-7-2.実際に訪れた施設上位10施設(平日、休日)

大きな施設に行く場合、留萌市立病院、マックスバリュ留萌店へ行くとの回答が多くなっています。

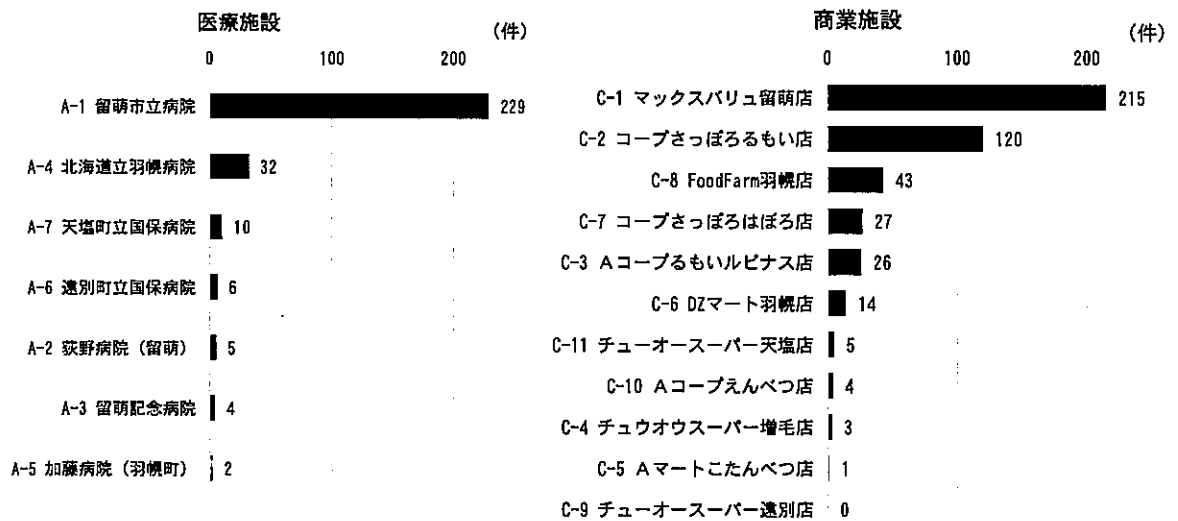


図 1-67 Q12-8-1.大きな施設に行く場合、図 1-68 Q12-8-2.大きな施設に行く場合、行く施設(通院) 行く施設(買い物)

④ 今後の公共交通への要望

自家用車に頼らない生活を送るときには、公共交通は現在のバスとタクシーの中間のような役割を果たすべきだと思うと答えた割合が最も多く、33.5%となっています。年齢別に見ると75歳以上ではその回答が比較的少なくなっている状況です。

また、留萌市と苫前町では現在のバスとタクシーの中間のような役割を果たすべきだと思うと答えた割合が比較的多い一方、天塩町ではタクシー等の自家用車の利便性と同じような公共交通にすべきだという回答が多くなっています。

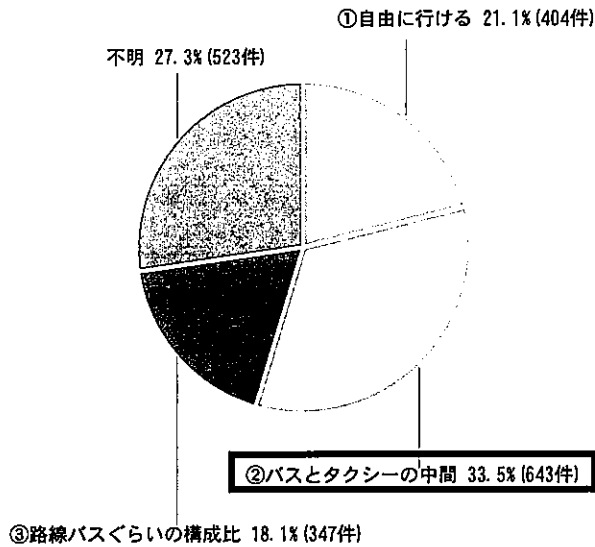


図 1-69 Q13.自家用車に頼らない生活を送るときに公共交通があるべき姿

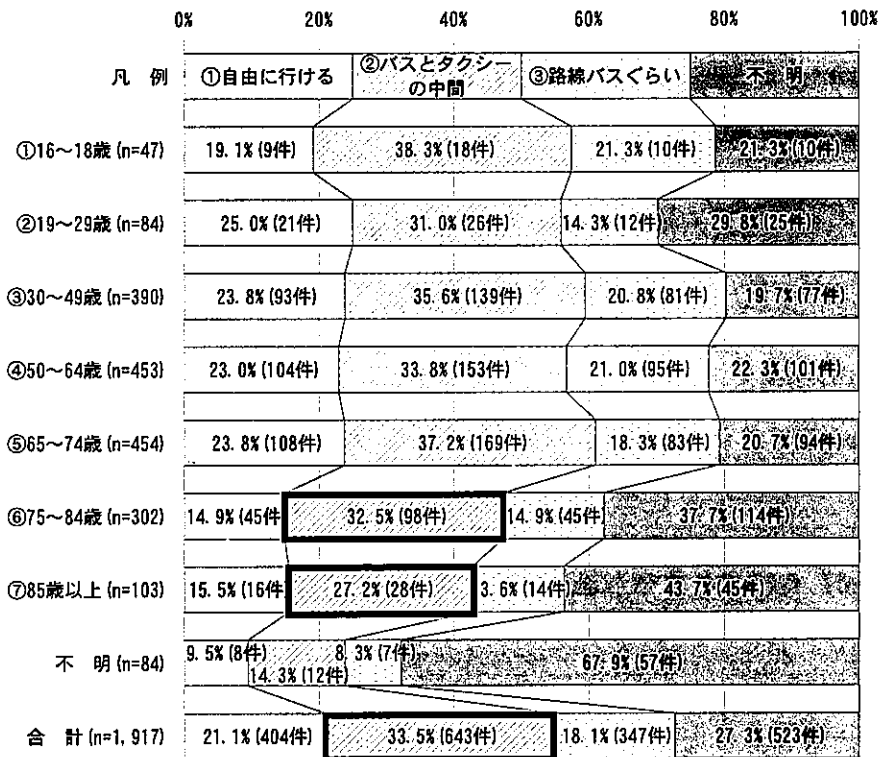


図 1-70 Q4.年齢×Q13.公共交通のあるべき姿

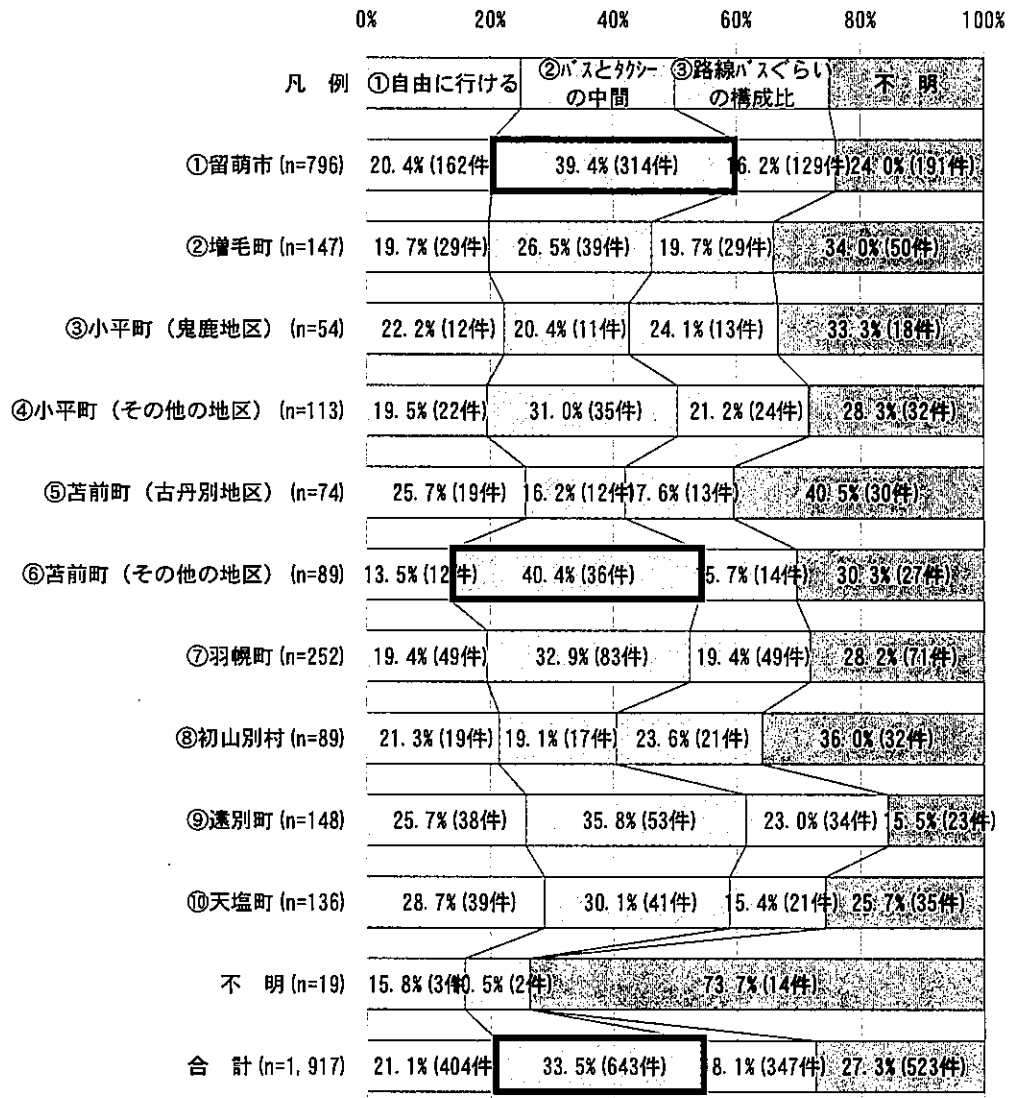


図 1-71 Q1.居住地域×Q13.公共交通のあるべき姿

感染症拡大前と比べ、公共交通の利用頻度は変わらないと答えた割合が多く、38.9%となっている一方、減ったと答えた割合も多く、24.3%となっています。

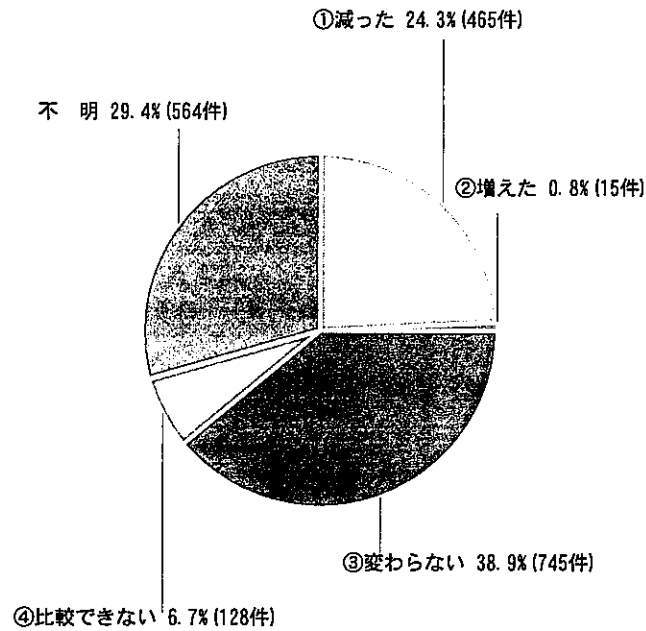


図 1-72 Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度

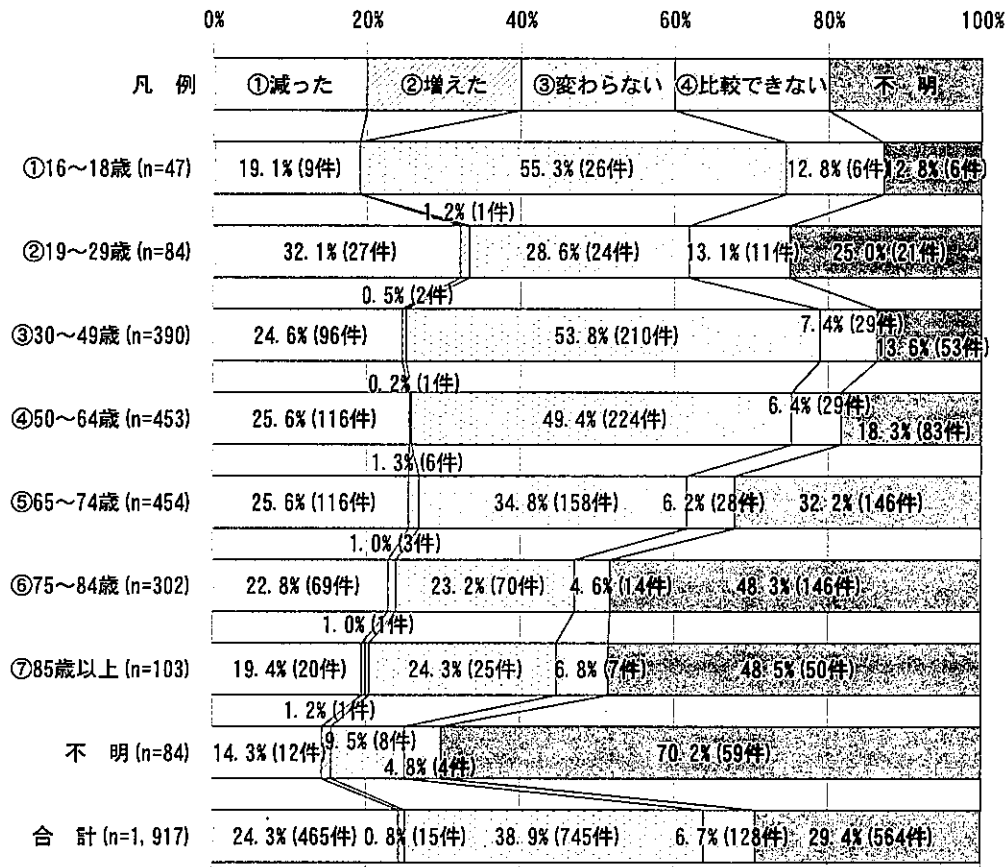


図 1-73 Q4.年齢×Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度

利用頻度が減った方は外出そのものが減った方多く、77.4%となっています。また、年齢別に見ても同様の結果となっています。

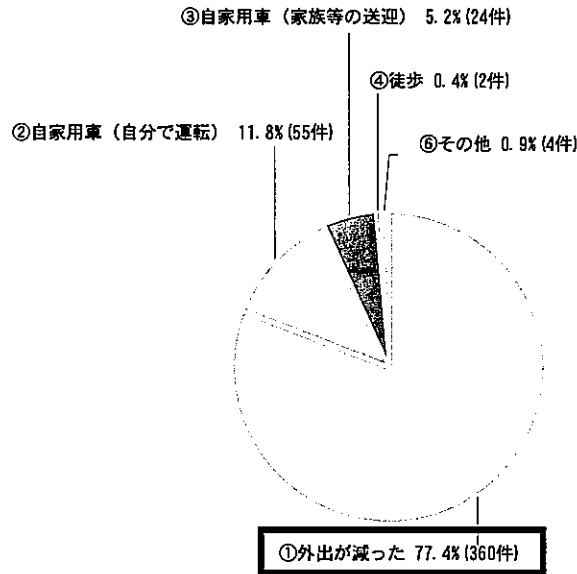


図 1-74 Q14-2.外出頻度・交通手段が変わったか (Q14-1.で利用頻度が減ったと答えた方が回答)

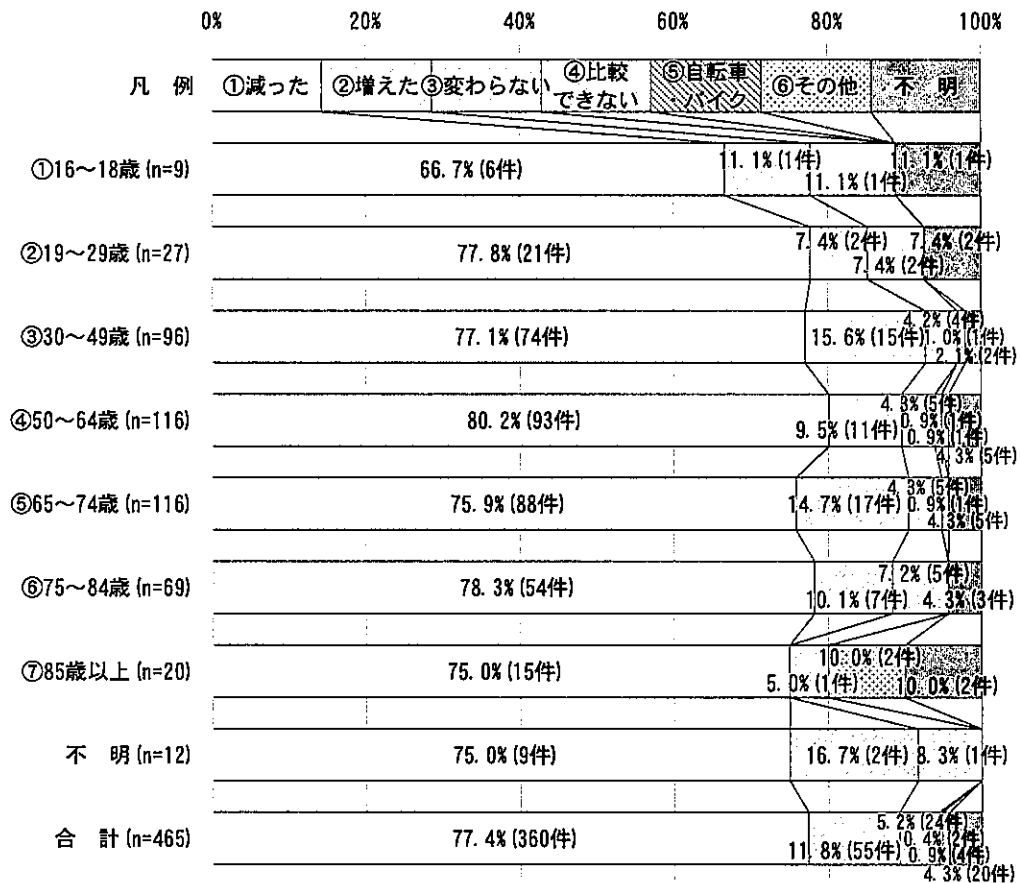


図 1-75 Q4.年齢×Q14-2.外出頻度・交通手段が変わったか

感染症流行が収束した後に、公共交通利用を促進する方策としては、格安で利用できるようにすべきという回答が最も多く、次いで対策はない、少人数による輸送と続いています。

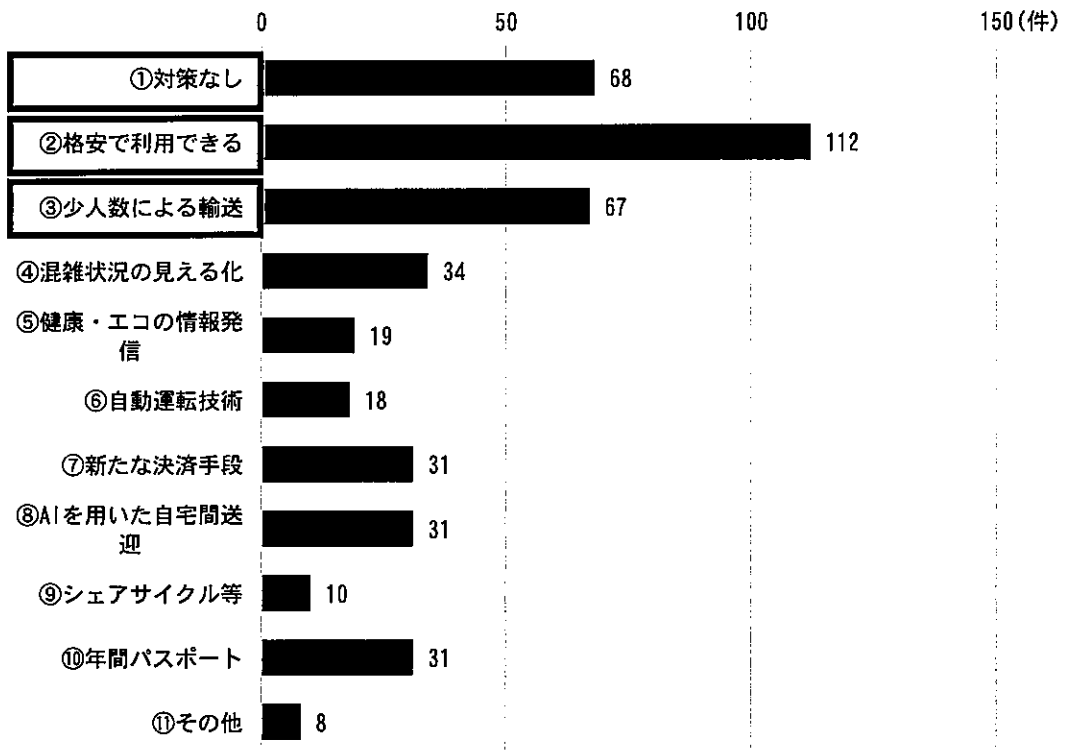


図 1-76 Q14-3.感染症収束後、公共交通利用を促進するための有効な方策

管内の路線バスについて、現在利用していない割合が67.7%となっており、内30.1%は今後は利用すると答えています。また、年齢別に見ると現在利用しているのは16～18歳の高校生世代となっており、65～84歳では現在は利用していないが、今後は利用すると答えた割合が多くなっています。地域別に見ると、増毛町、羽幌町、初山別村では現在利用していないが、今後は利用すると答えた割合が他の地区と比べ比較的多くなっています。

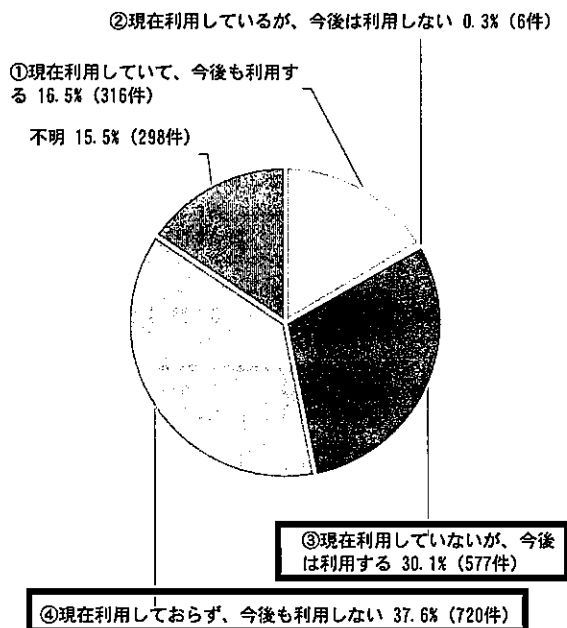


図 1-77 Q15-1.管内の路線バスの利用について

凡例	①現在利用して、今後も利用する	②現在利用しているが、今後は利用しない	③現在利用していないが、今後は利用する	④現在利用しておらず、今後は利用しない	不明
①16～18歳 (n=47)	51.1% (24件)	2.1% (1件)	10.6% (5件)	27.7% (13件)	8.5% (4件)
②19～29歳 (n=84)	20.2% (17件)	17.9% (15件)		45.2% (38件)	16.7% (14件)
③30～49歳 (n=390)	10.0% (39件)	24.4% (95件)		58.7% (229件)	6.9% (27件)
④50～64歳 (n=453)	13.9% (63件)	0.2% (1件)	27.2% (123件)	45.9% (208件)	2.8% (13件)
⑤65～74歳 (n=454)	16.3% (74件)		40.7% (185件)	28.9% (131件)	14.1% (64件)
⑥75～84歳 (n=302)	23.2% (70件)	0.3% (1件)	36.8% (111件)	18.2% (55件)	21.5% (65件)
⑦85歳以上 (n=103)	19.4% (20件)	1.9% (2件)	20.4% (21件)	36.9% (38件)	21.4% (22件)
不明 (n=84)	10.7% (9件)	1.2% (1件)	26.2% (22件)	9.5% (8件)	52.4% (44件)
合計 (n=1,917)	16.5% (316件)	0.3% (6件)	30.1% (577件)	37.6% (720件)	15.5% (298件)

図 1-78 Q4.年齢×Q15-1.管内の路線バスの利用について

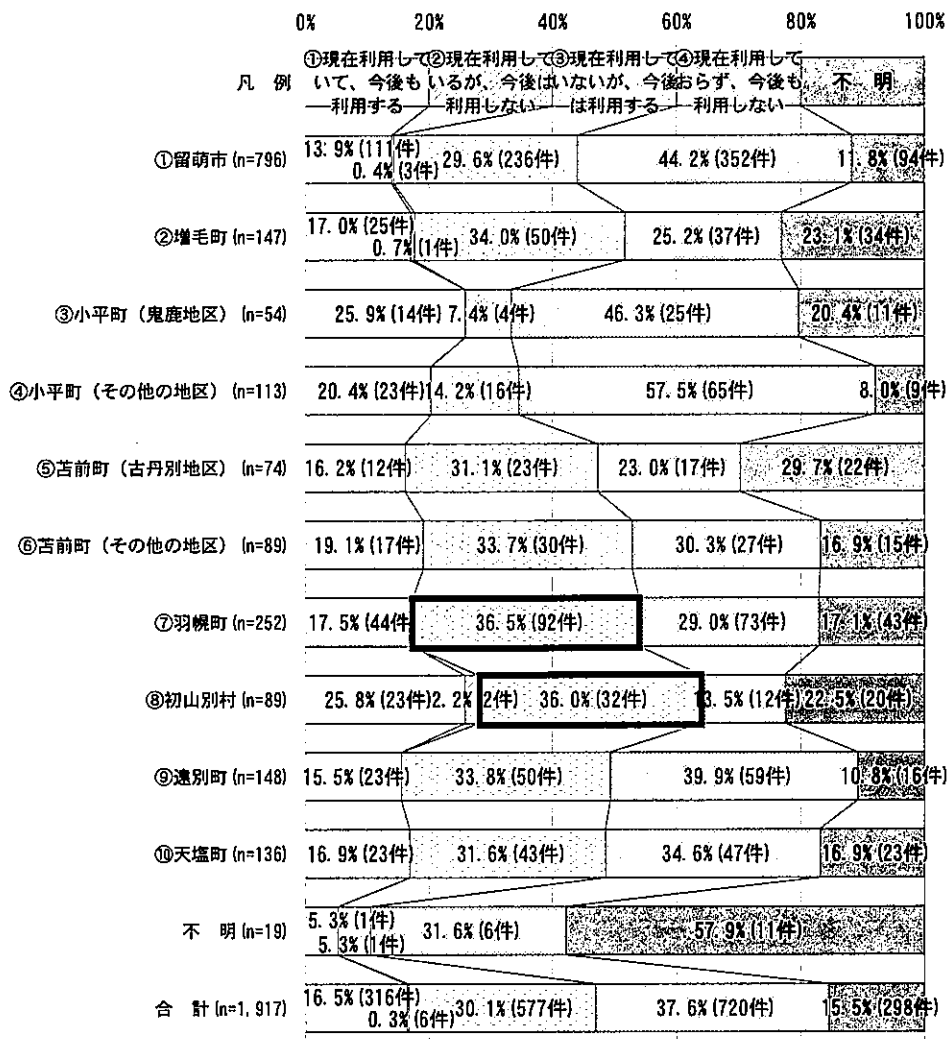


図 1-79 Q1.居住地域×Q15-1.管内の路線バスの利用について

路線バスの満足度は、始発時刻、運賃、自宅とバス停の距離、乗り降りのしやすさについて、満足だという回答が比較的多くみられた一方、便数、最終時刻、待合の環境について不満が多くなっています。

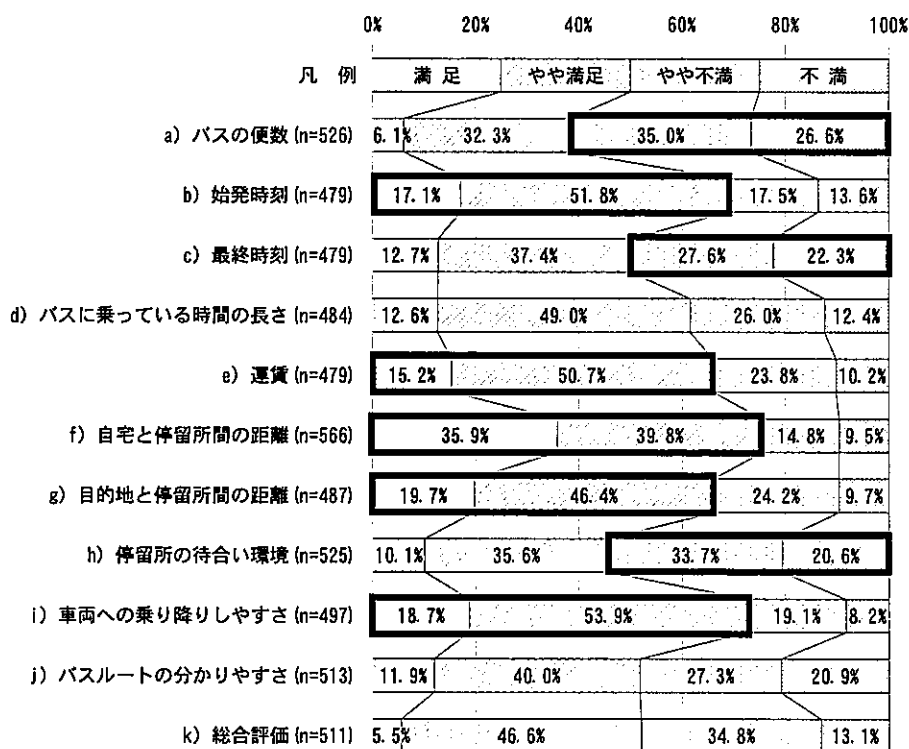


図 1-80 Q15-2.路線バスの満足度

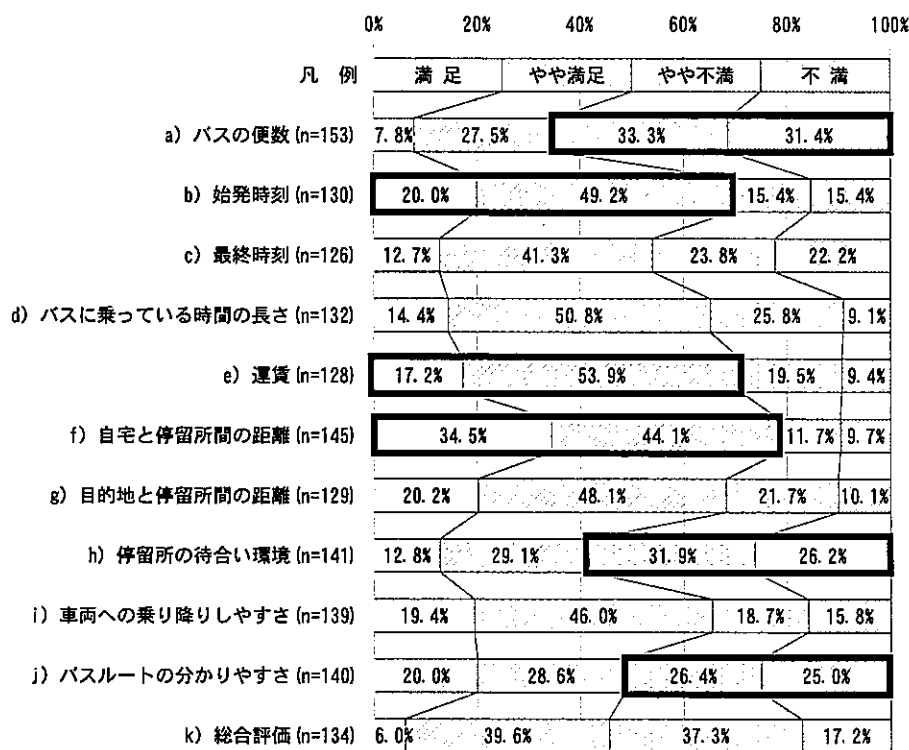


図 1-81 Q7.において、普段運転できる車を持っていない×Q15-2.路線バスの満足度

電話予約できる公共交通について、あれば利用するという割合が 35.3%と最も多くなっています。また、地域別に見ると増毛町、小平町鬼鹿地区、天塩町では利用するという割合が他地区と比較して多くなっています。

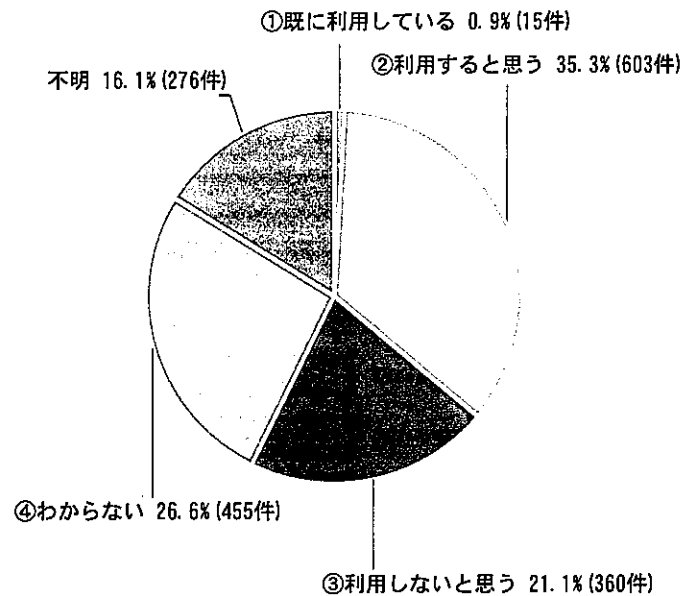


図 1-82 Q15-3.電話予約できる公共交通があれば利用するか

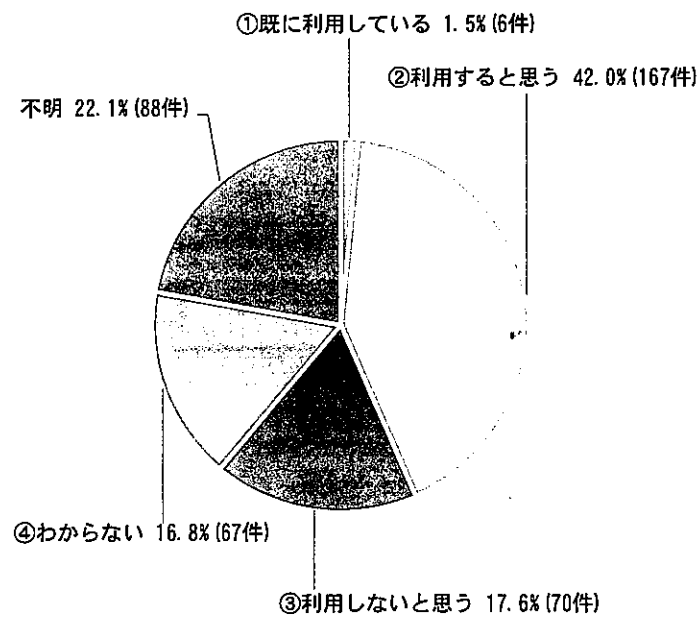


図 1-83 Q7.において、普段運転できる車を持っていない
×Q15-3.電話予約できる公共交通があれば利用するか

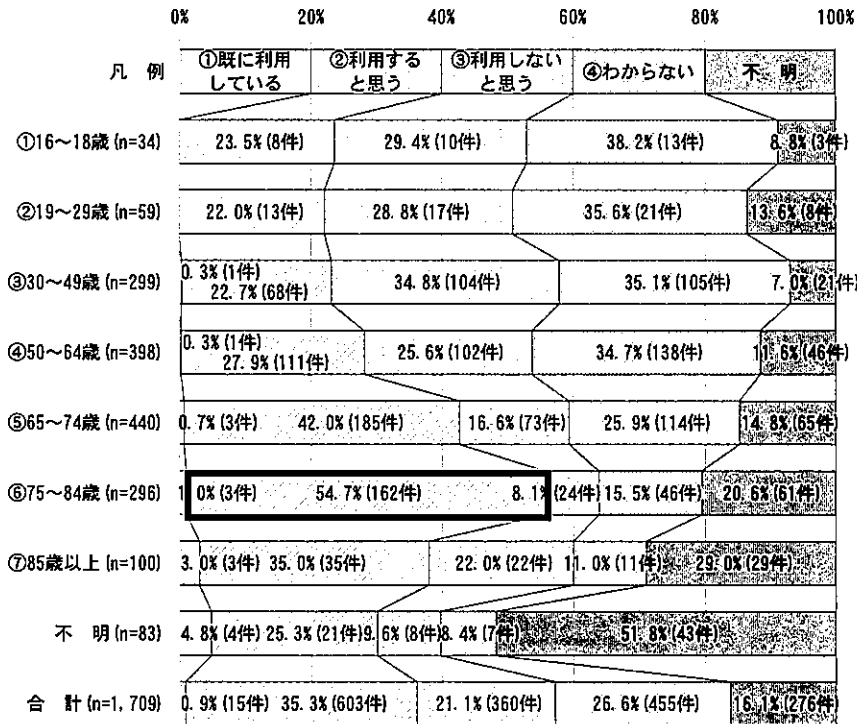


図 1-84 Q4.年齢×Q15-3.電話予約できる公共交通があれば利用するか

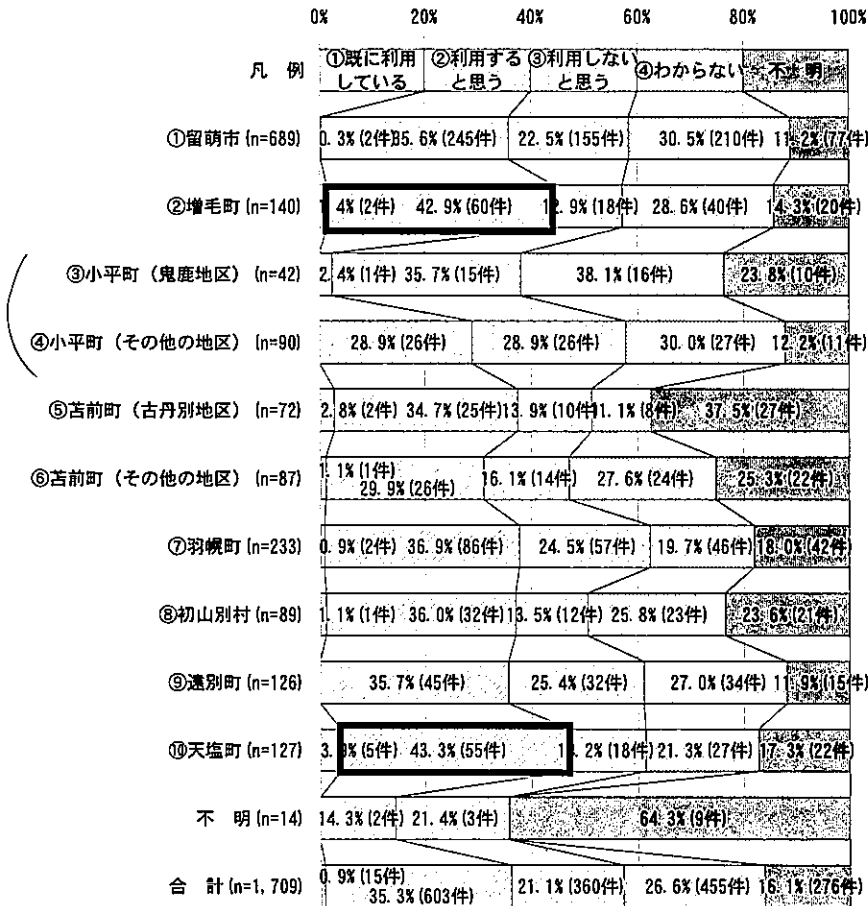


図 1-85 Q1.居住地域×Q15-3.電話予約できる公共交通があれば利用するか

実際に利用する際は週に 1,2 回～月に数回程度利用すると思うと回答している割合が多くなっています。

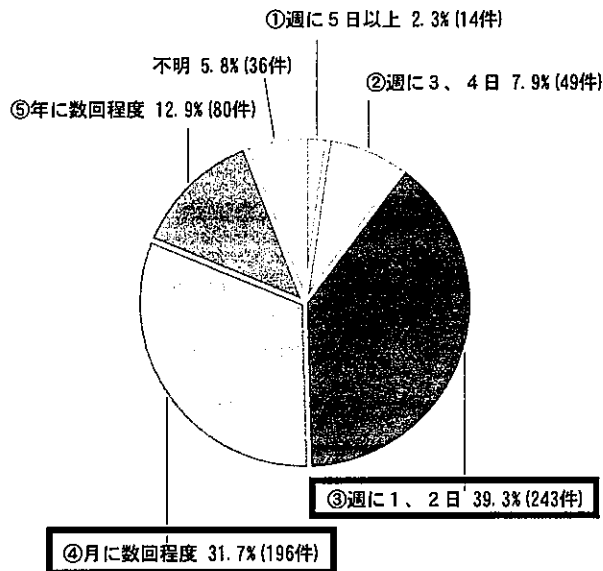


図 1-86 Q15-4.実際にどれくらいの頻度で利用しているか、する予定か (Q15-3.で既に利用している、利用すると思うと答えた方のみ回答)

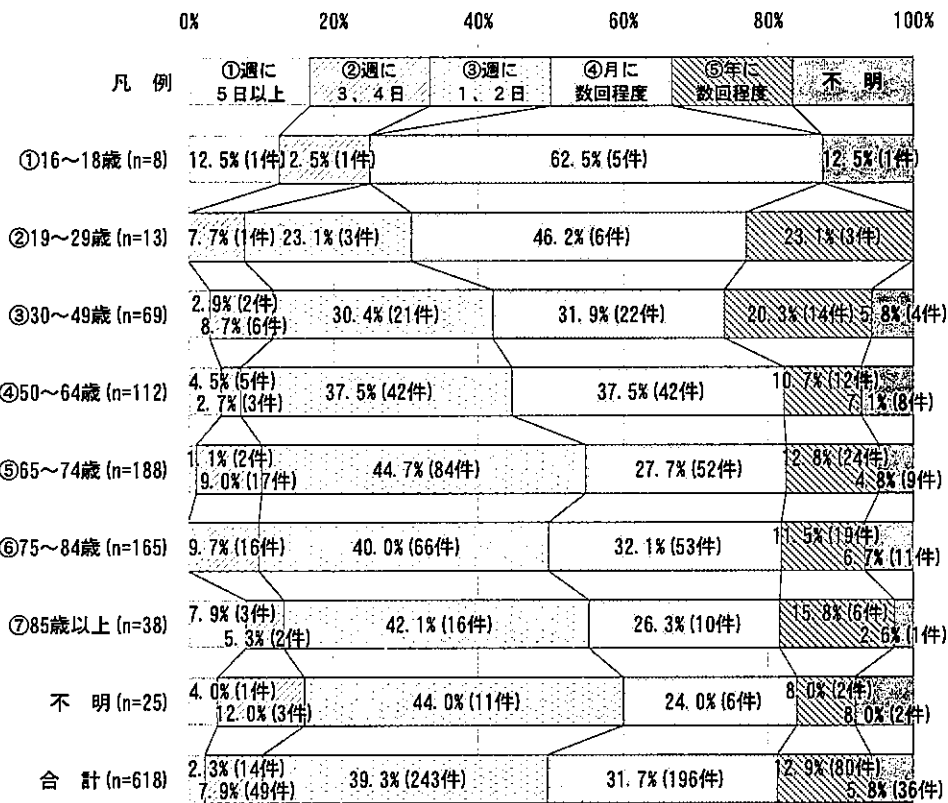


図 1-87 Q4.年齢×Q15-4.実際にどれくらいの頻度で利用しているか、する予定か

電話予約できる公共交通が路線バスと比べて 200 円～400 円高くなっても利用すると答えた割合が比較的多くっており、600 円以上だと利用しないと答えた割合が急増しています。

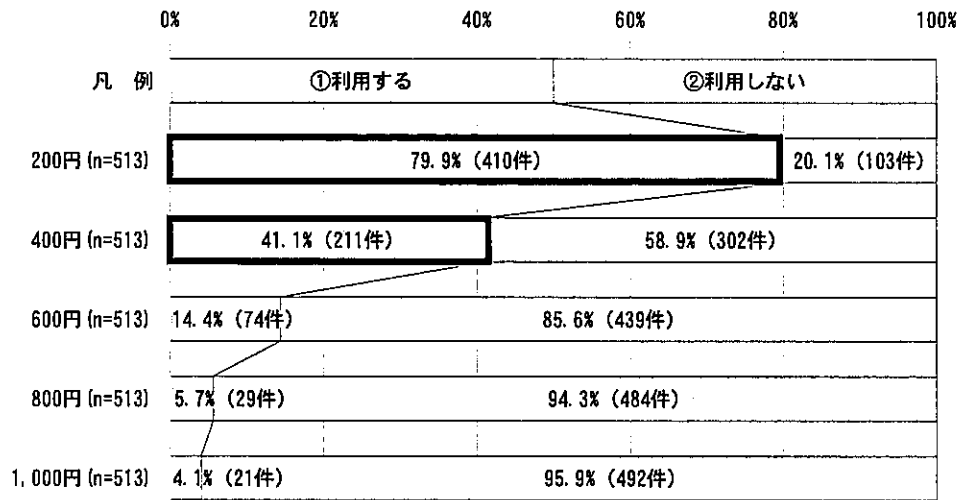


図 1-88 Q15-5.電話予約できる公共交通が路線バスと比べて〇円分高くなった場合、利用するか

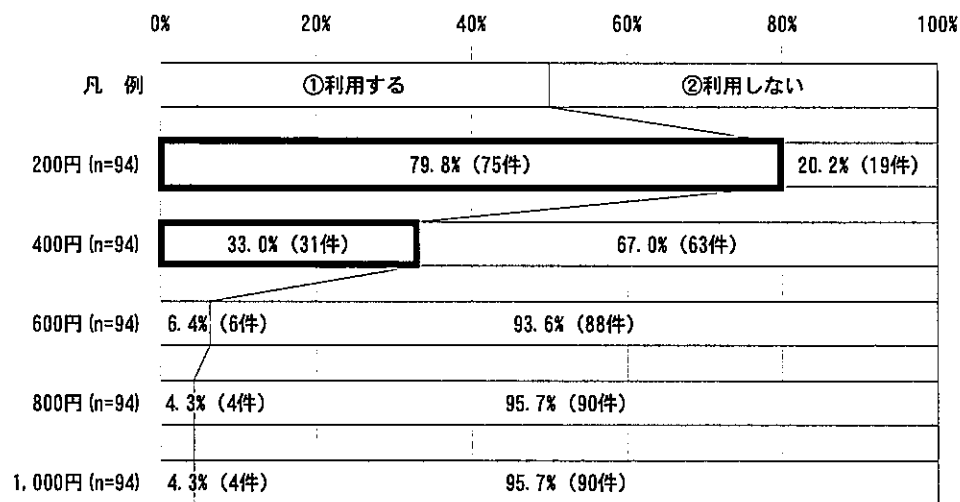


図 1-89 Q7.において、普段運転できる車を持っていない
×Q15-5. 電話予約できる公共交通が路線バスと比べて〇円分高くなった場合、利用するか

今後の公共交通を維持するための方針として、経費を税金から補填し、現在のサービスを維持する、長大路線を分割してニーズに合った運行時刻について比較的理解されている一方、運行回数を減らすことには理解が示されていない状況です。

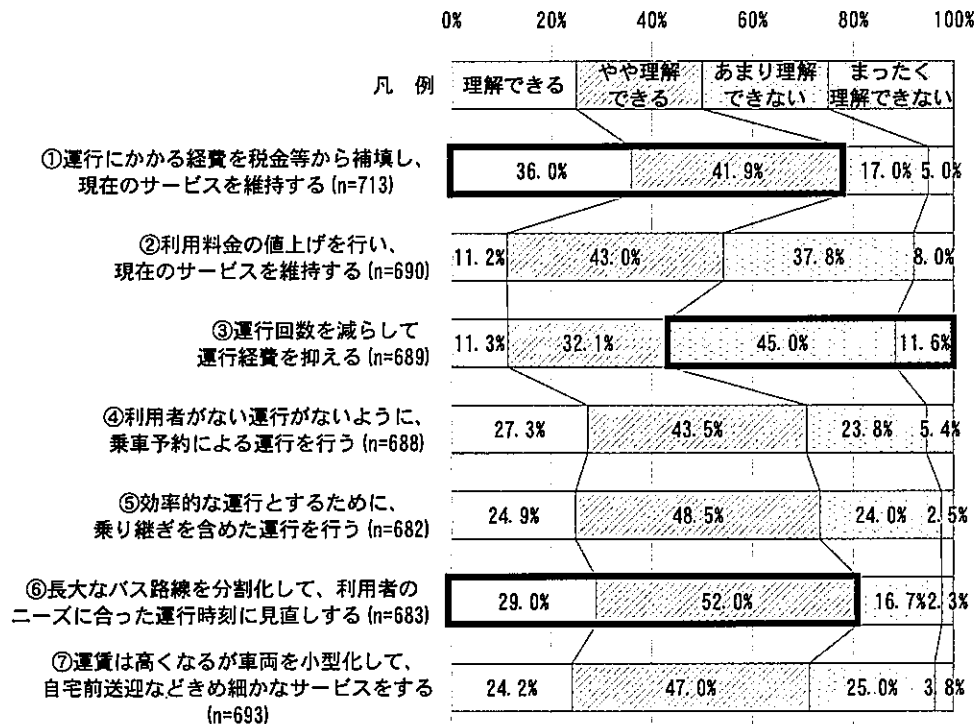


図 1-90 Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針

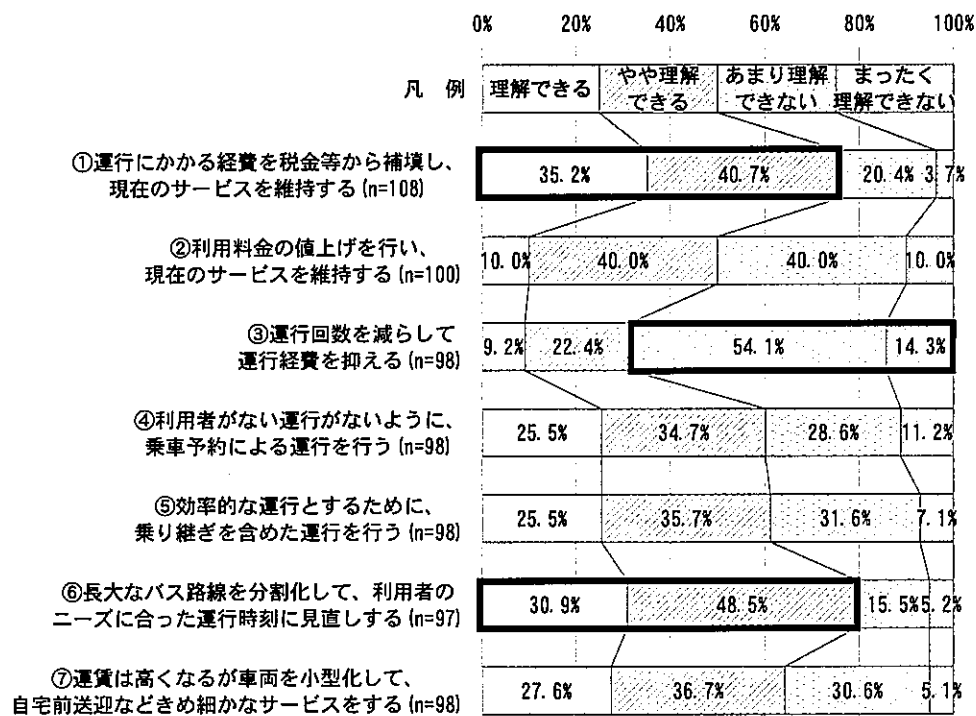


図 1-91 Q7.において、普段運転できる車を持っていない
×Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針

月 3,000 円、6,000 円で自宅から施設までアクセスできる交通があった場合、3,000 円であれば利用すると答えた割合が 32.7% となっています。また、年齢別に見ると 65～84 歳で利用すると答えた割合が多くなっています。地域別に見ると、増毛町、苫前町古丹別地区、初山別村で利用すると答えた割合が多くなっています。

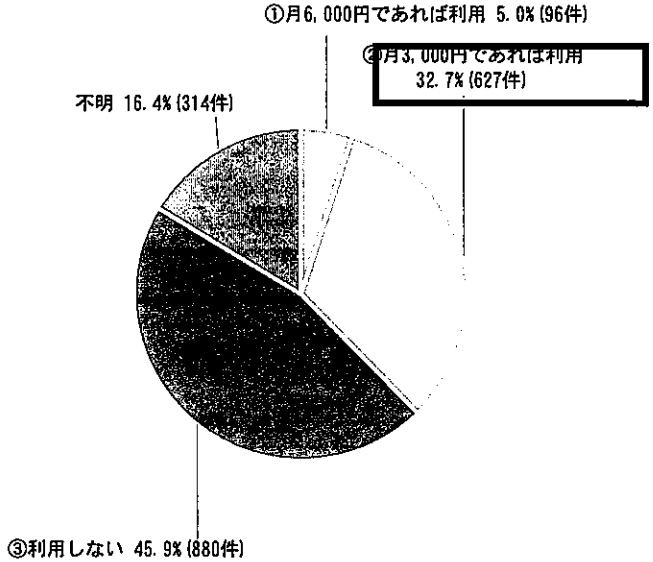


図 1-92 Q16-1.9-15 時で自宅から施設まで直接アクセスできる交通があった場合、利用するか

凡例	①月6,000円であれば利用	②月3,000円であれば利用	③利用しない	不明
①16～18歳 (n=47)	2.1% (1件)	29.8% (14件)	55.3% (26件)	12.8% (6件)
②19～29歳 (n=84)	6.0% (5件)	26.2% (22件)	56.0% (47件)	11.9% (10件)
③30～49歳 (n=390)	6.2% (24件)	23.6% (92件)	63.6% (248件)	6.7% (26件)
④50～64歳 (n=453)	4.2% (19件)	31.6% (143件)	51.2% (232件)	3.0% (59件)
⑤65～74歳 (n=454)	4.6% (21件)	39.9% (181件)	41.2% (187件)	14.3% (65件)
⑥75～84歳 (n=302)	6.3% (19件)	42.7% (129件)	28.1% (85件)	22.8% (69件)
⑦85歳以上 (n=103)	5.8% (6件)	26.2% (27件)	36.9% (38件)	31.1% (32件)
不明 (n=84)	1.2% (1件)	22.6% (19件)	56.0% (47件)	19.2% (16件)
合計 (n=1,917)	5.0% (96件)	32.7% (627件)	45.9% (880件)	16.4% (314件)

図 1-93 Q4.年齢×Q16-1.9-15 時で自宅から施設まで直接アクセスできる交通があった場合、利用するか

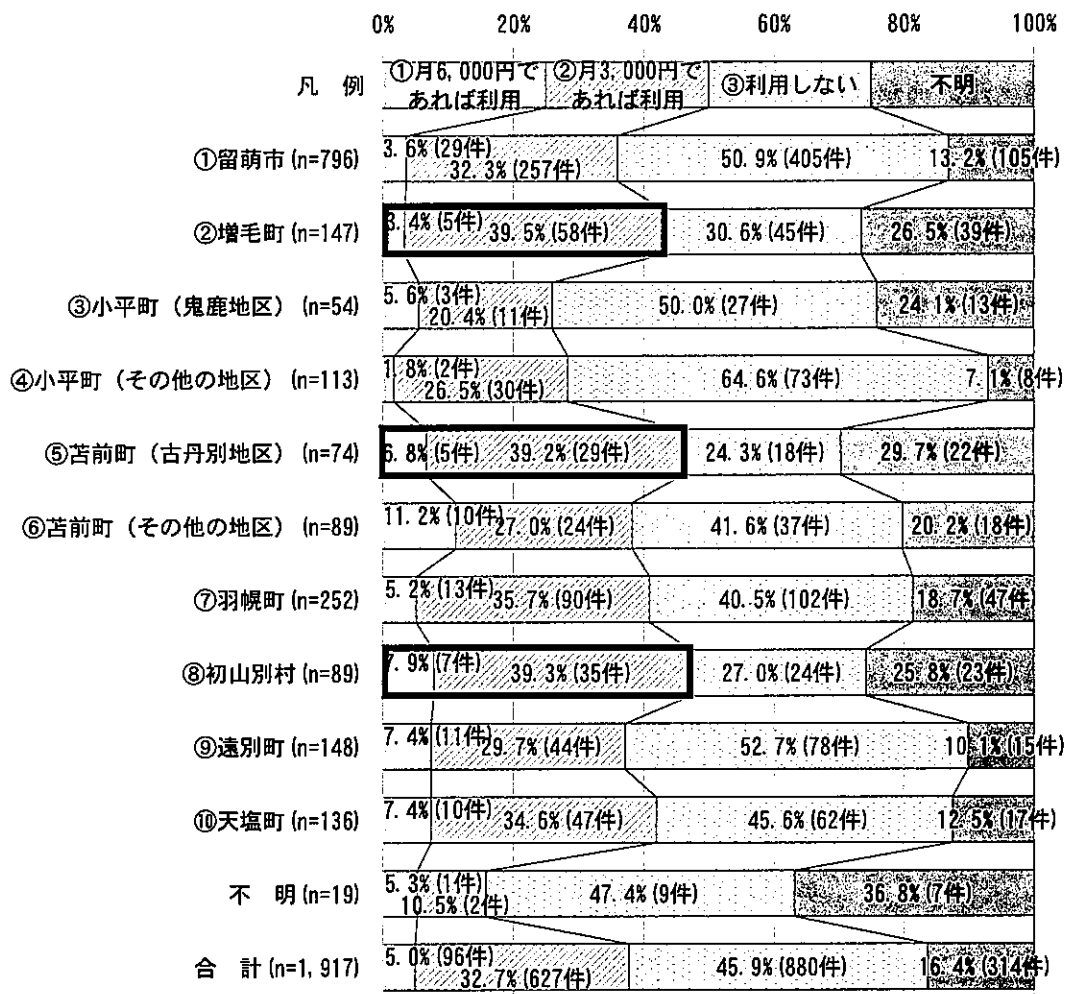


図 1-94 Q1.居住地域×Q16-1.9-15 時で自宅から施設まで直接アクセスできる交通があった場合、利用するか

沿岸バス利用時は現金で支払いをしていると答えた割合が32.6%と多くなっています。

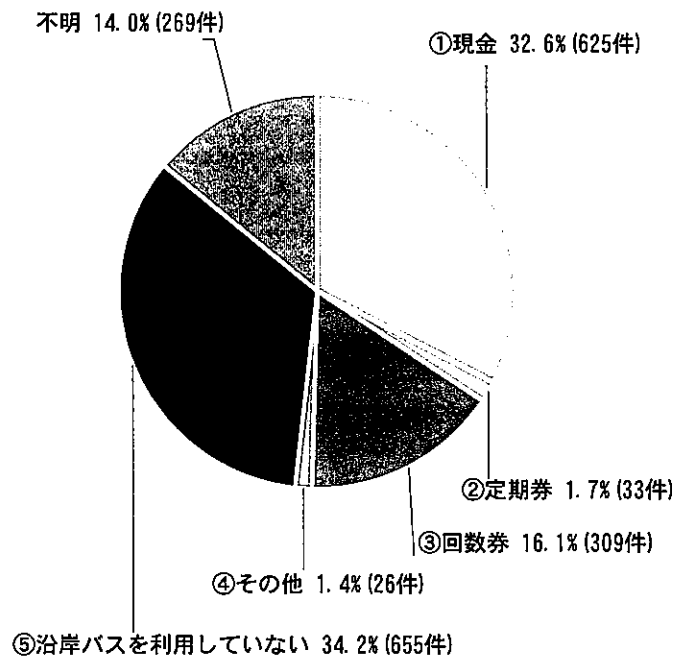


図 1-95 Q16-2.沿岸バス利用時の支払い方法

10日程度の往復運賃で1か月利用できる路線バスがある場合、利用するかについて、利用しないと答えた割合が最も多く、58.0%となっています。一方、年齢別に見ると16～18歳、地域別に見ると増毛町では利用すると答えた割合が多くなっています。

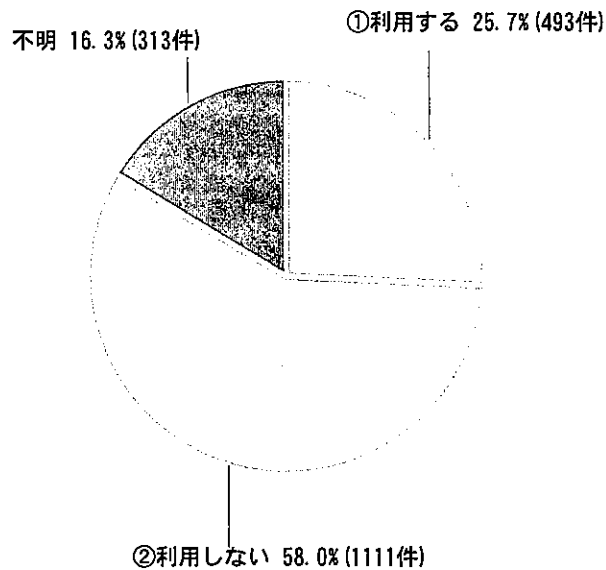


図 1-96 Q16-3.10 日間程度の往復運賃で1か月利用できる路線バスがある場合、利用するか

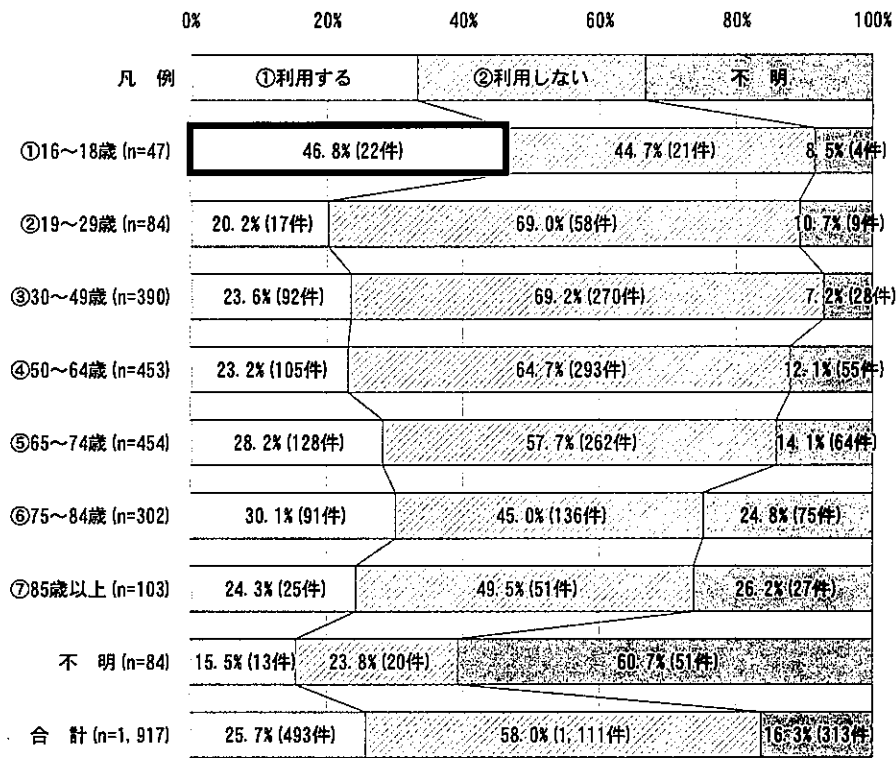


図 1-97 Q4.年齢×Q16-3.10 日間程度の往復運賃で1か月利用できる路線バスがある場合、利用するか

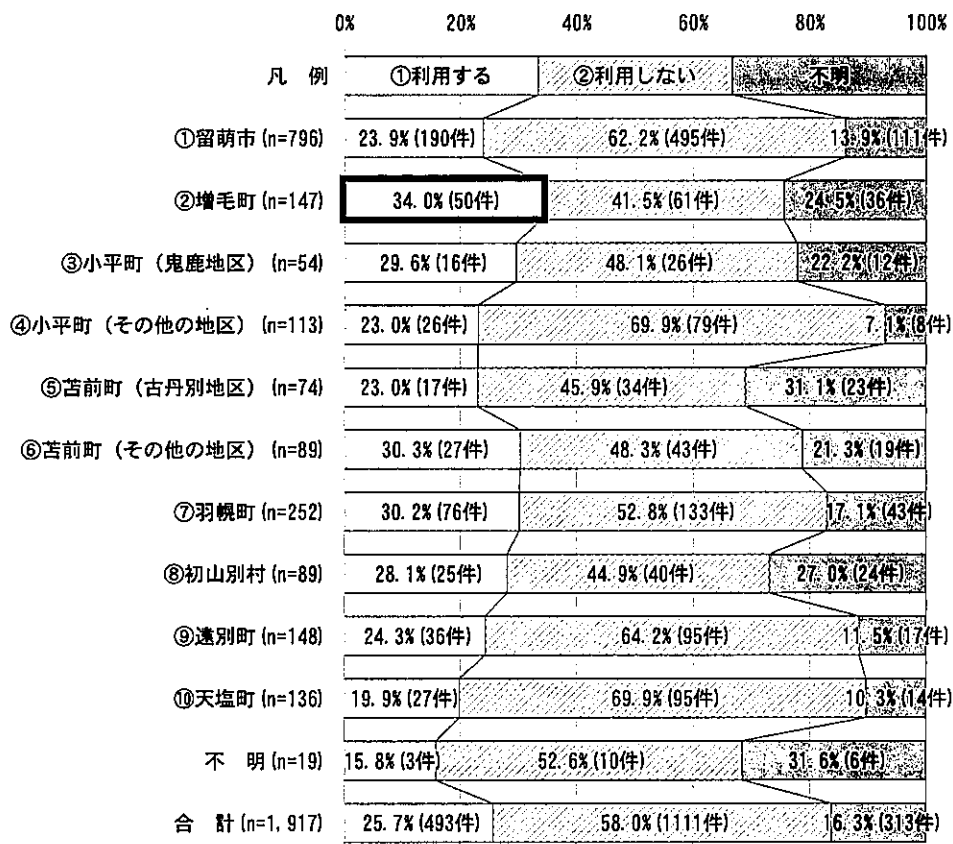


図 1-98 Q1.居住地域×Q16-3.10 日間程度の往復運賃で1か月利用できる路線バスがある場合、利用するか

サービス利用で食事や施設利用が安くなる等のサービスがあってもパーク&バスライドを利用しないと答えた割合が多く、53.9%となっています。

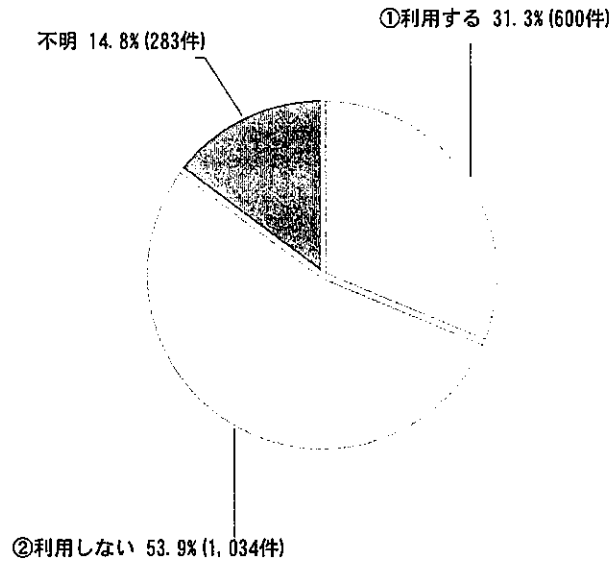


図 1-99 Q16-4.サービス利用で食事や施設利用が安くなる等のサービスがあった場合、パークアンドバスライドを利用するか

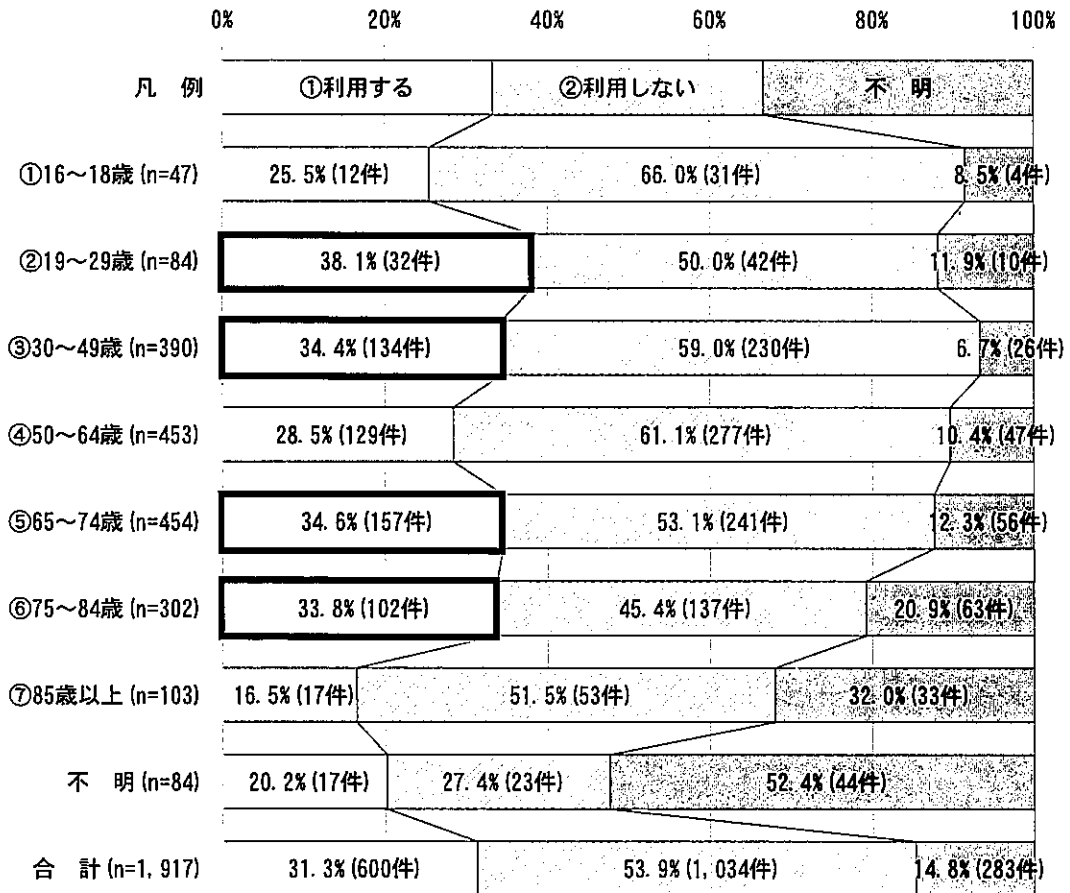


図 1-100 Q4.年齢×Q16-4.サービス利用で食事や施設利用が安くなる等のサービスがあった場合、パークアンドバスライドを利用するか

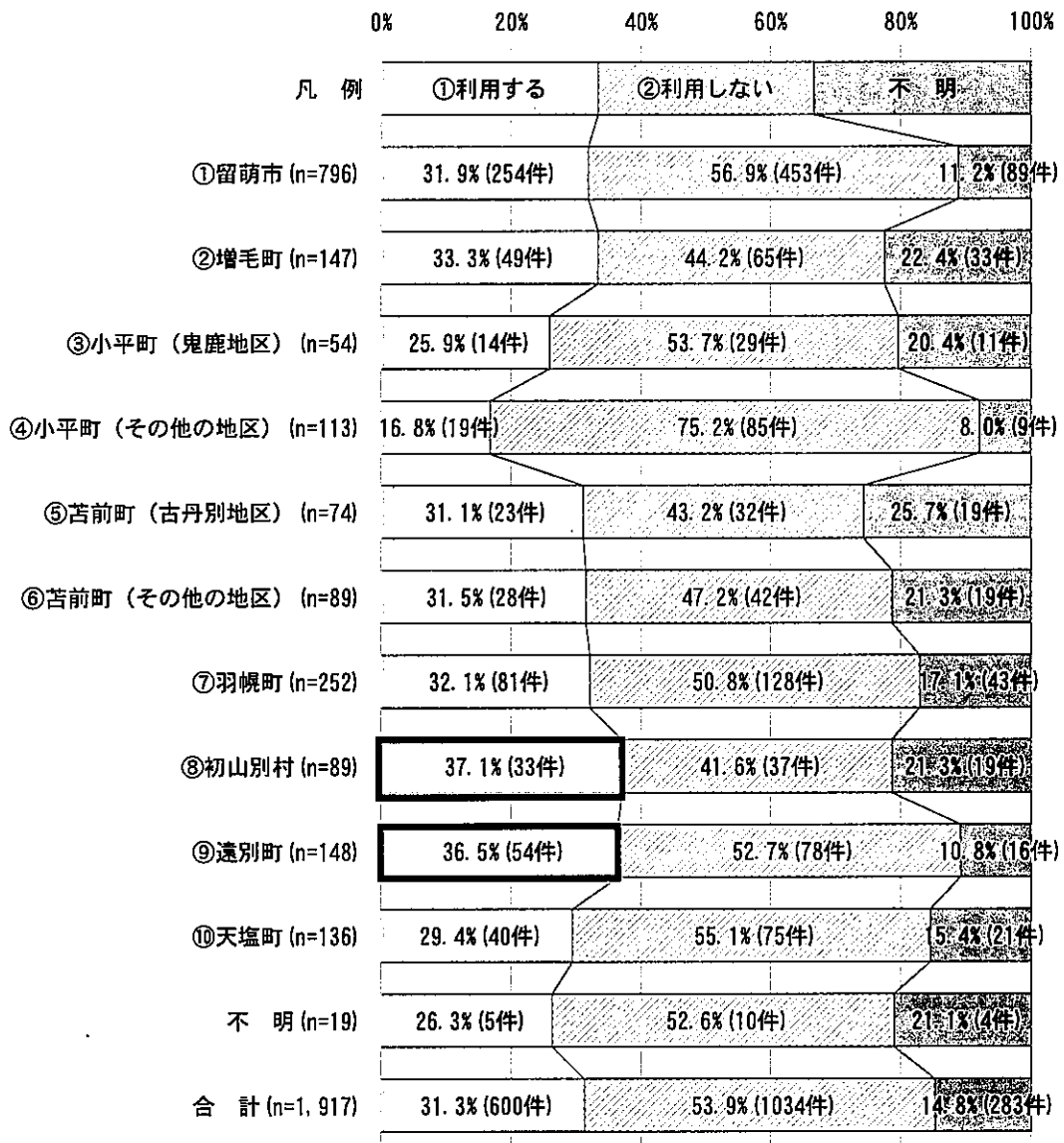


図 1-101 Q1.居住地域×Q16-4.サービス利用で食事や施設利用が安くなる等のサービスがあった場合、パークアンドバスライドを利用するか

バス運転手として就業するための支援策について、大型二種免許取得の補助、短時間勤務などの運用が多く挙げられている状況です。

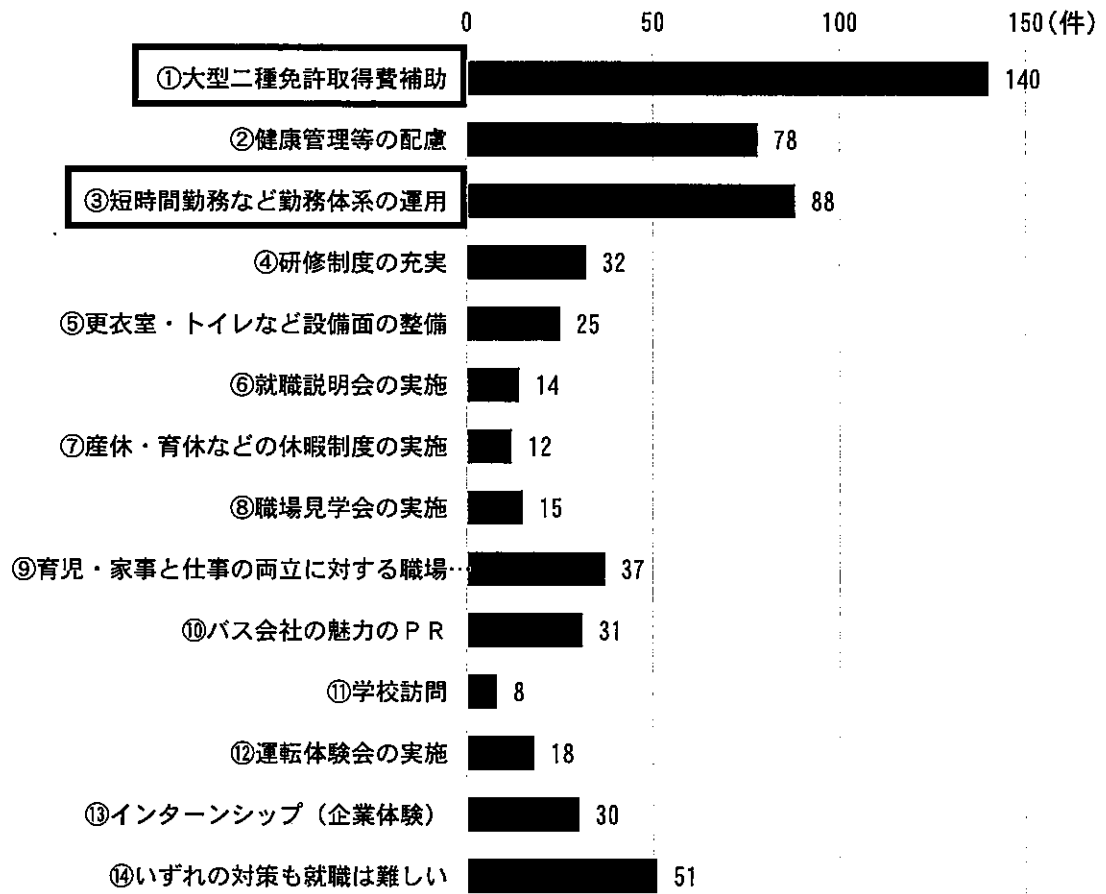


図 1-102 Q16-5.バス運転手として就業する場合、バス会社がどのような支援策を講じると良いか

公共交通にあると便利なサービスとしては割引、乗り継ぎのしやすさ、休憩待合室の設置が比較的多くなっています。

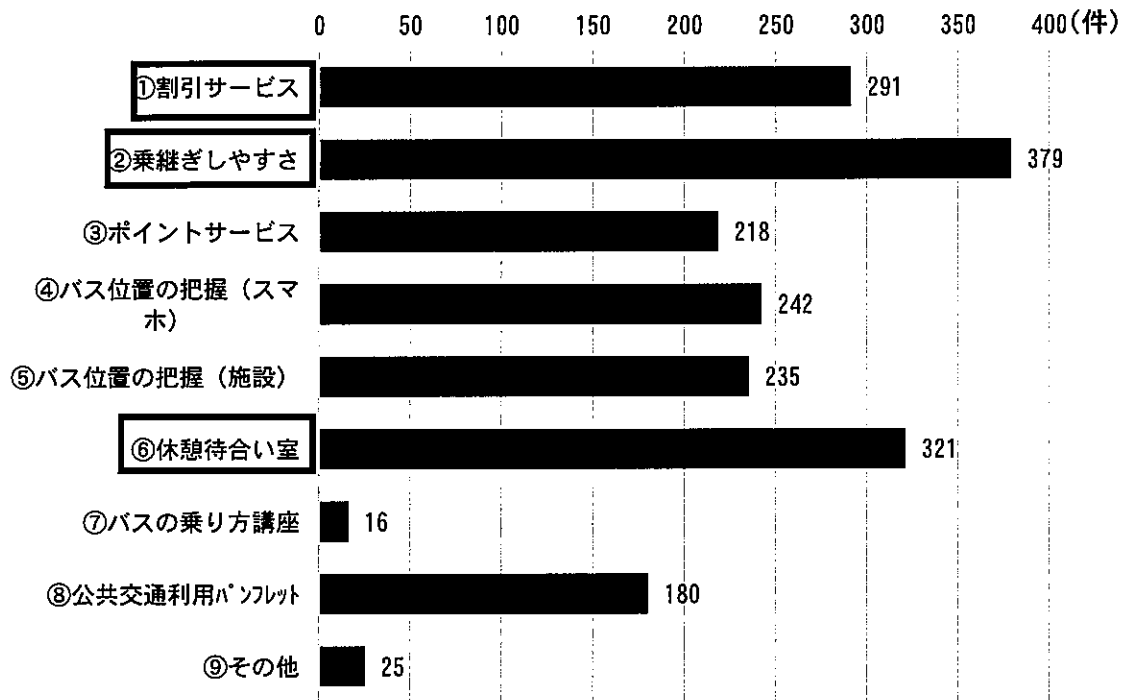


図 1-103 Q16-6.公共交通にあると便利なサービス

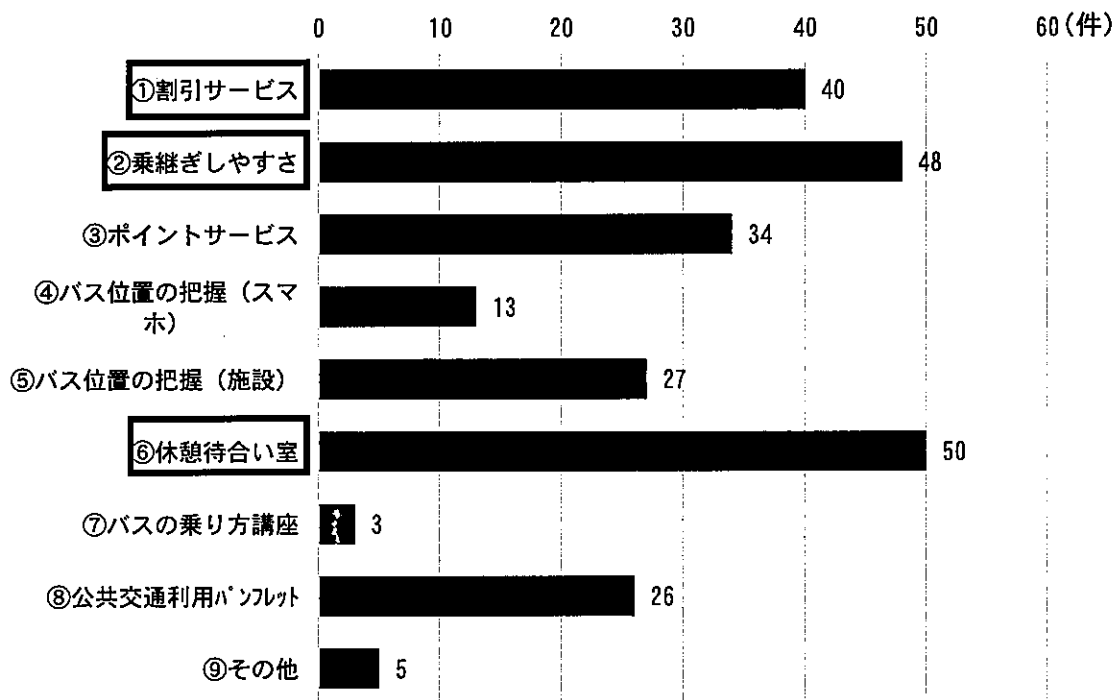


図 1-104 Q7.において、普段運転できる車を持っていない
×Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針

⑤ その他、公共交通についての意見

- ・始発を早め最終便を遅くする(11件)
- ・バスの小型化(10件)
- ・バス車両のバリアフリー化(9件)
- ・冬期間の安定運行(7件)
- ・増便(7件)
- ・デマンド運行(6件)
- ・バス停龍所を細かく配置(5件)
- ・バス待ち環境の改善(4件)
- ・運賃を低額化(4件)
- ・留萌駅での乗り継ぎへの配慮(4件)
- ・交通弱者対策(3件)
- ・公共交通の利便性の向上(3件)
- ・域と帰りの時間が空きすぎ、短すぎ(3件)
- ・JR 留萌線廃線への対策(3件)
- ・フェリーから路線バスへ乗り継ぎ(3件)
- ・スマホ等でバス位置を把握(2件)
- ・バス停留所への告示(2件)
- ・バスの予約運行(2件)
- ・Web での乗車予約(2件)
- ・路線バスの定時性確保(2件)
- ・稚内迄の直通便の運行(2件)
- ・先端技術:AI、ドローン、ICカードの導入(2件)
- ・タクシーを利用しやすくする(2件)
- ・バス運転手の乗客への話し方の改善(2件)
- ・自動運転など新技術の導入(2件)
- ・旭川・札幌間の利便性向上(2件)
- ・特急ましけ号の運行維持(2件)
- ・乗車マナーの向上(2件)
- ・路線バスに日中、乗っている人を見たことがない(2件)
- ・その他(34件)